2 －1　匝瑳市の現況

1）概況

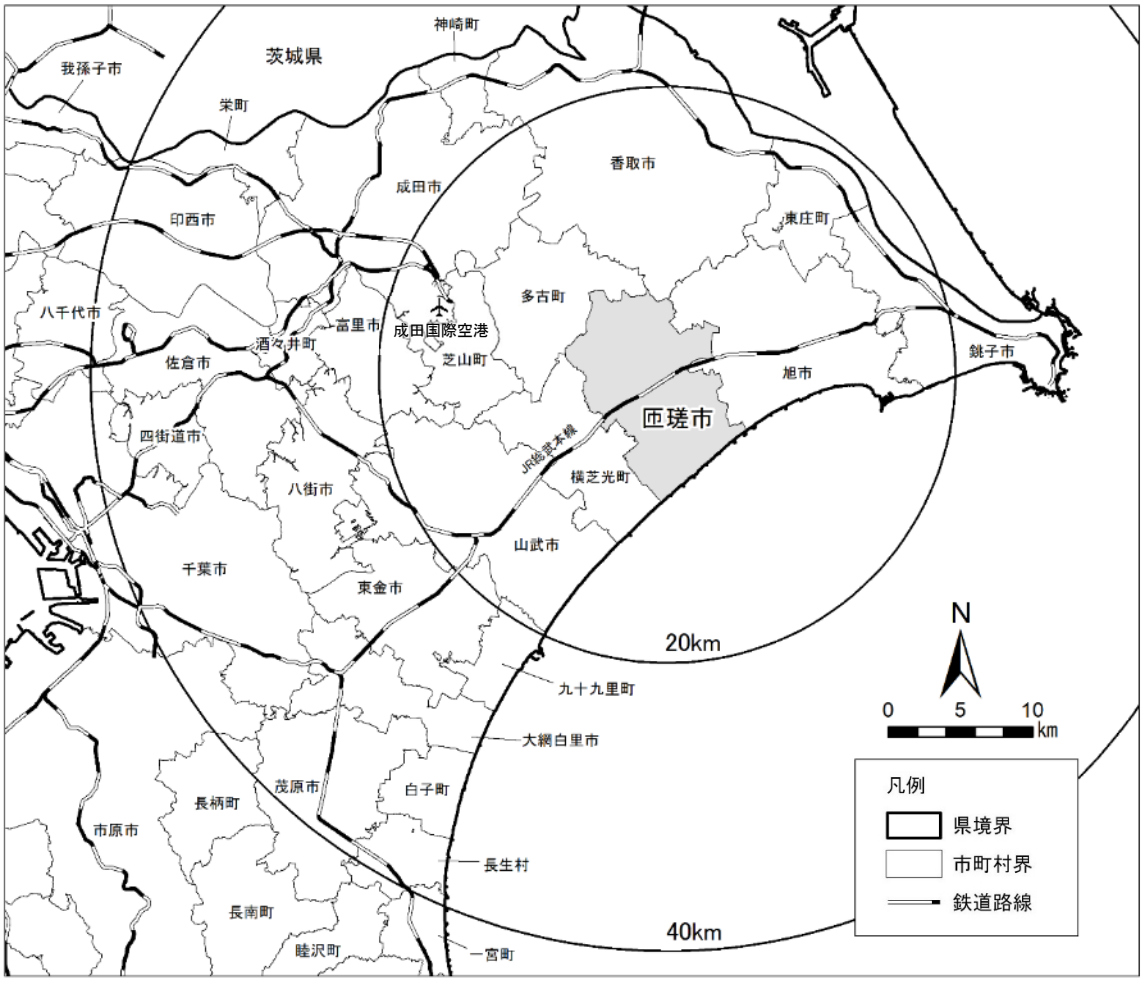
（1）位置・地勢

本市は、千葉県北東部に位置し、千葉市からは約 40ｋｍ圏内、成田国際空港からは約 20ｋｍ圏内の距離にあります。

東は旭市、北は香取市と香取郡多古町、西は山武郡横芝光町に隣接しています。市の総面積は 101.48ｋ㎡です。

市の中心部を国道 126 号と並行してＪＲ総武本線が東西に走り、本市と千葉市、銚子市等を結んでいます。

■ 匝瑳市位置図



［出典：国土数値情報］

2）人口等

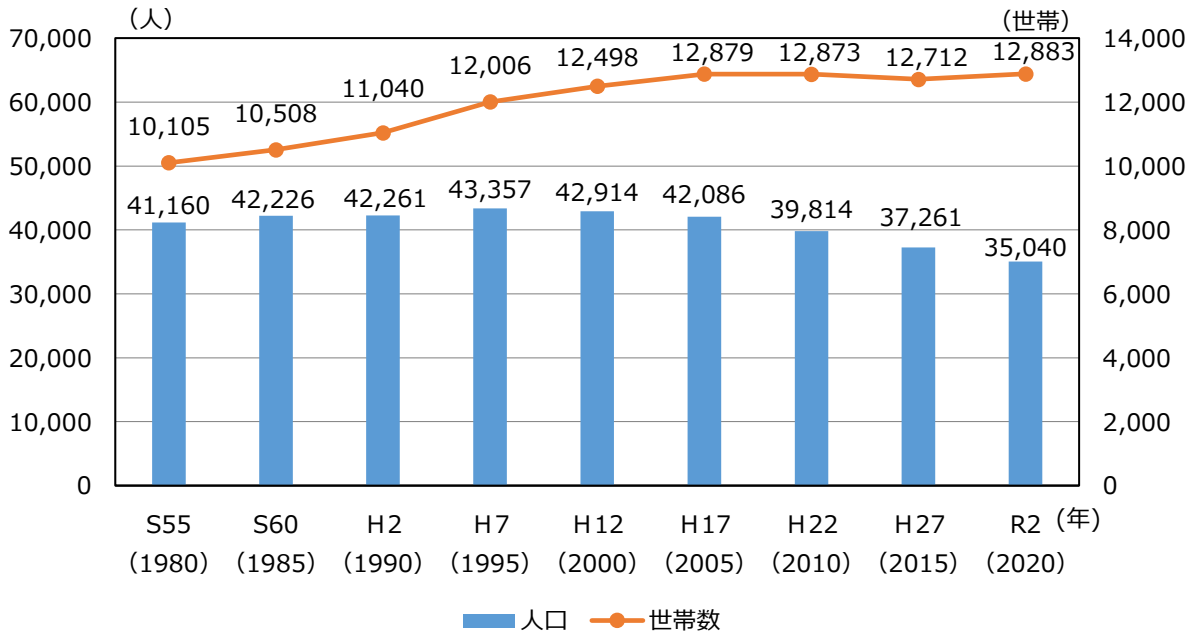
（1）人口・世帯数

1 人口・世帯の推移

本市の人口は、平成７年（1995 年）の 43,357 人をピークとして減少し、令和２年（2020 年）には 35,040 人と、ピーク時より約２割の減少となっています。

世帯数は、昭和 55 年（1980 年）から平成 17 年（2005 年）まで増加を続け、近年はほぼ横ばいの状況となっています。人口が減少しつつも世帯数が横ばいであることから、１世帯当たりの人員が減少しています。

■ 人口・世帯数の推移

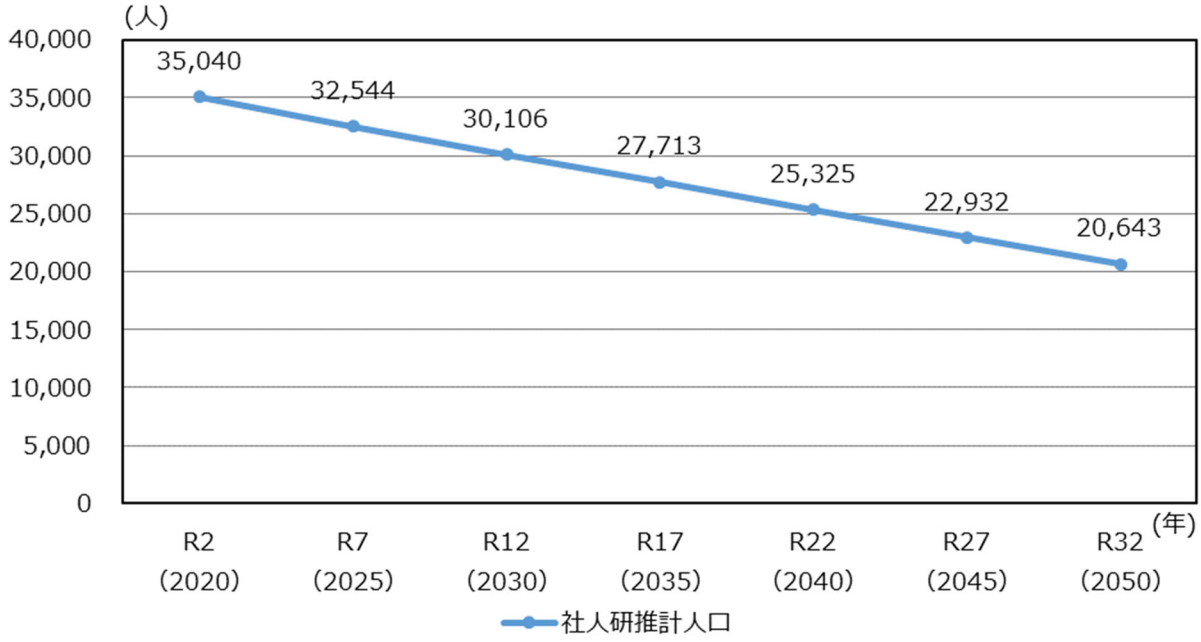


［出典：国勢調査］

② 将来人口の推移

国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の推計人口は、令和 32 年（2050 年）には 20,643 人と令和２年（2020 年）の 35,040 人より４割以上の減少となっています。

■ 将来人口の推移



［出典：令和２年（2020 年）は国勢調査、令和７年（2025 年）以降は日本の地域別将来推計人口（令和５年（2023 年）推計、社人研）］

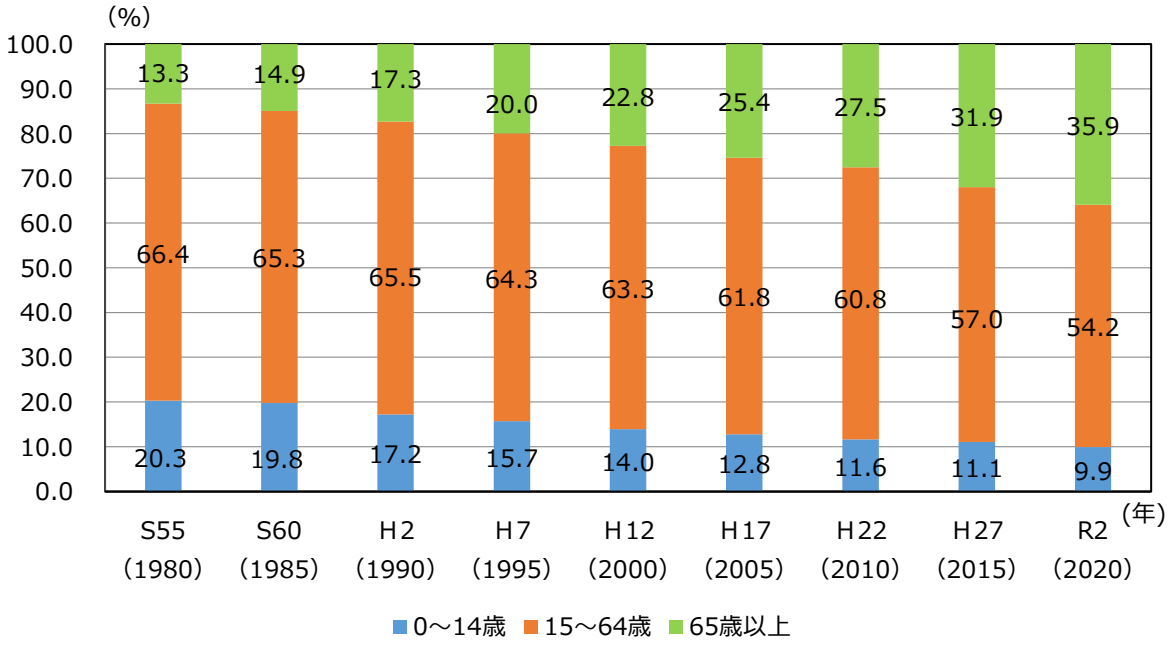
（2）年齢構成

1 年齢３区分別人口の推移

昭和 55 年（1980 年）以降、０～14 歳人口の割合が減少しているのに対して、65 歳以上人口の割合は大きく増加しています。

このため、令和２年（2020 年）には、０～14 歳人口の割合は 9.9%であるのに対し、65 歳以上人口の割合が 35.9%と、少子高齢化が顕著に進行しています。

■ 年齢３区分別人口の推移



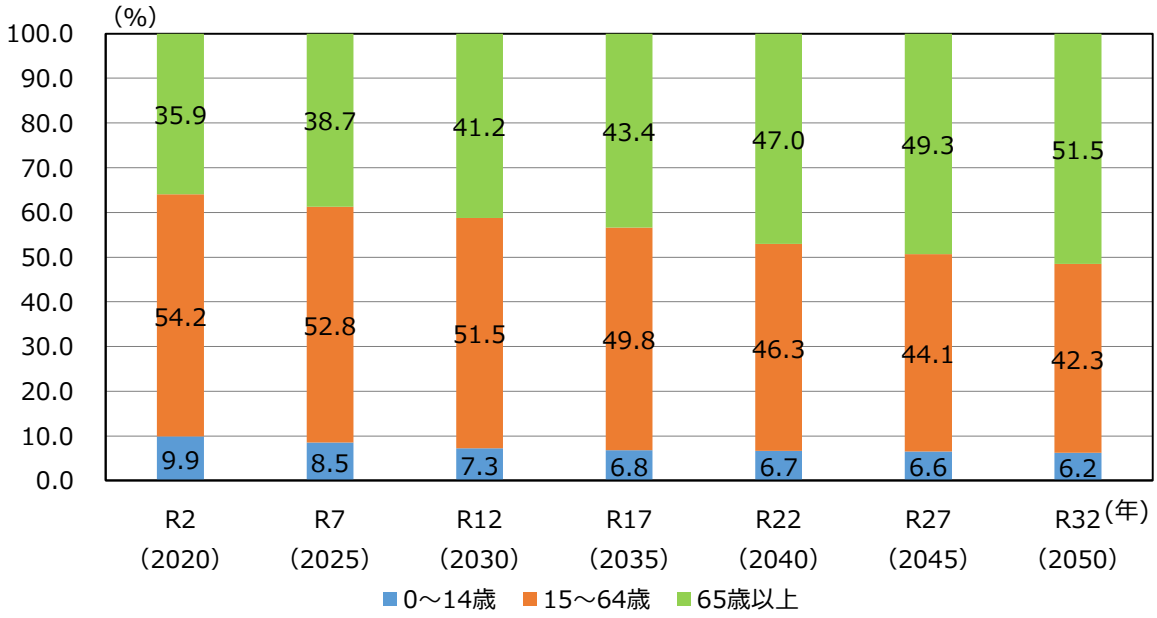
［出典：国勢調査］

② 年齢３区分別将来人口の推移

令和２年（2020 年）以降、０～14 歳人口の割合は微減、15～64 歳人口の割合は減少、65 歳以上人口の割合は増加すると推計されています。

令和 22 年（2040 年）以降には、65 歳以上人口が 15～64 歳人口を上回ると推計されています。

■ 年齢３区分別将来人口の推移



［出典：令和２年（2020 年）は国勢調査、令和７年（2025 年）以降は日本の地域別将来推計人口（令和５年（2023 年）推計、社人研）］

（3）自然増減・社会増減

1 自然増減・社会増減の推移

人口は平成 24 年（2012 年）以降、マイナスで推移し、人口減少が続いています。自然増減は、約 250 人から約 500 人の減少で推移し、社会増減は、令和２年（2020 年）を除き約 60 人から約 600 人の減少で推移しています。なお、令和２年（2020 年）は、新型コロナウイルス感染症の流行によるテレワークの普及等に伴い、都市部からの人口流入が進み社会増になったと考えられます。

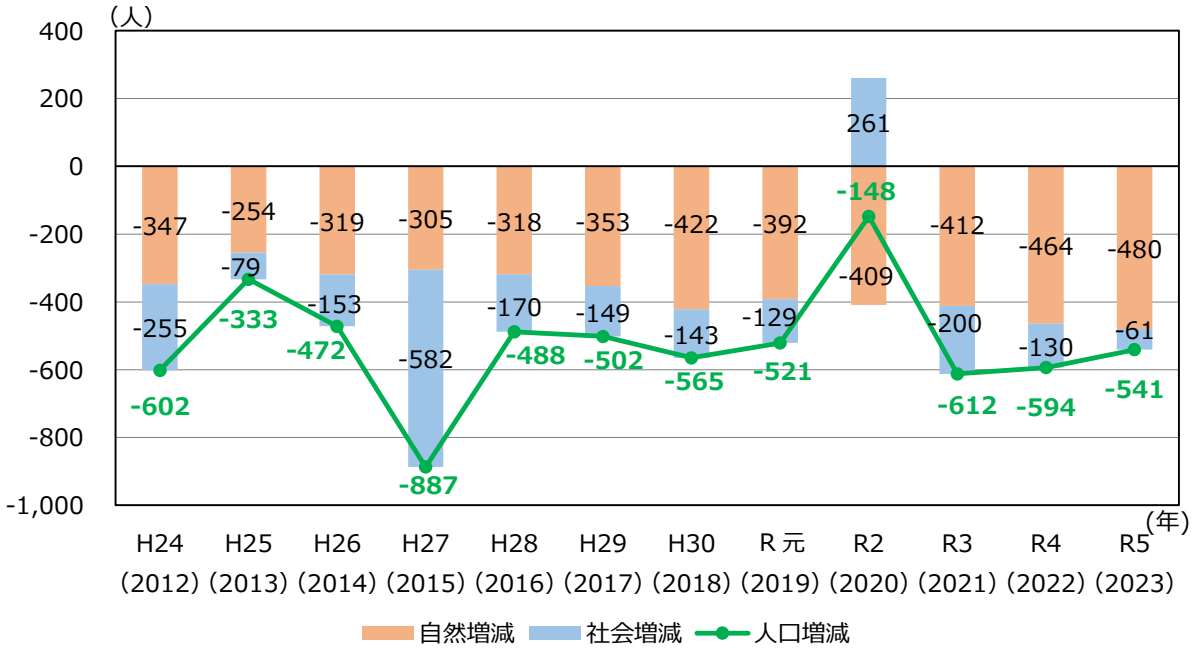
2 転入出、出生・死亡数の推移

転入出数は、令和２年（2020 年）を除き転出数が転入数を上回り、出生・死亡数は、死亡数が出生数を上回る状況が続いています。特に、出生数は、平成 24 年（2012 年）以降、概ね減少傾向にあります。

3 年齢別転入・転出の状況

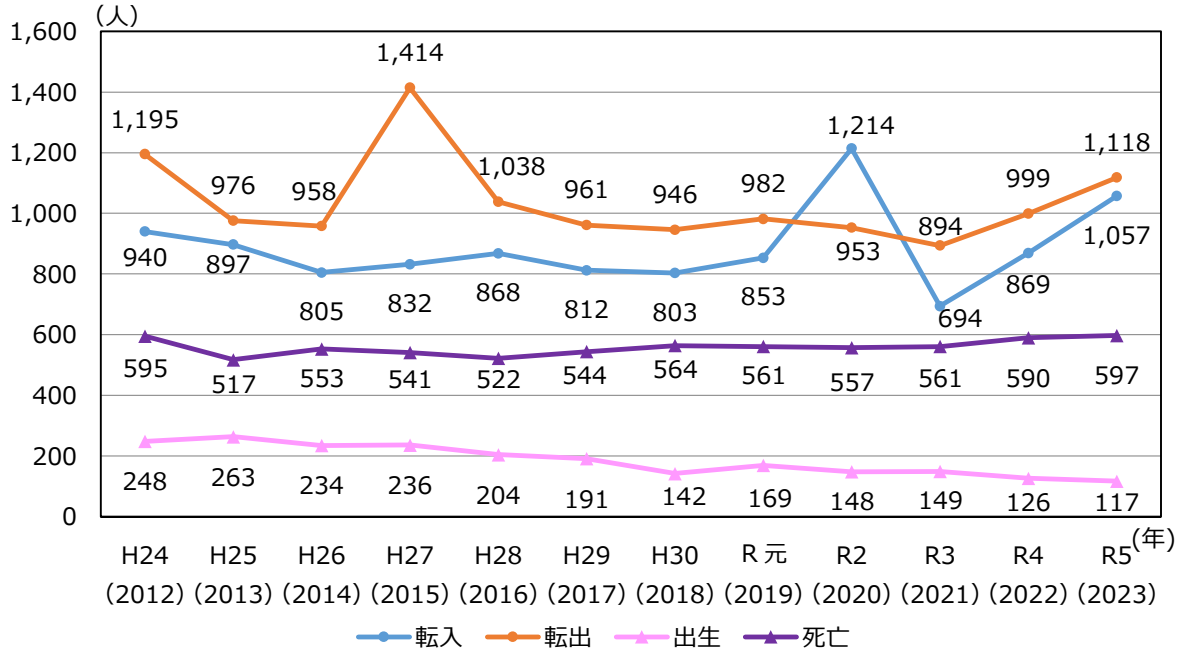
令和５年（2023 年）における年齢別転入・転出の状況は、20 代の転出が非常に多いことがわかります。若者世代が、進学や就職を機に千葉県外へ流出していると考えられます。

■ 自然増減・社会増減の推移



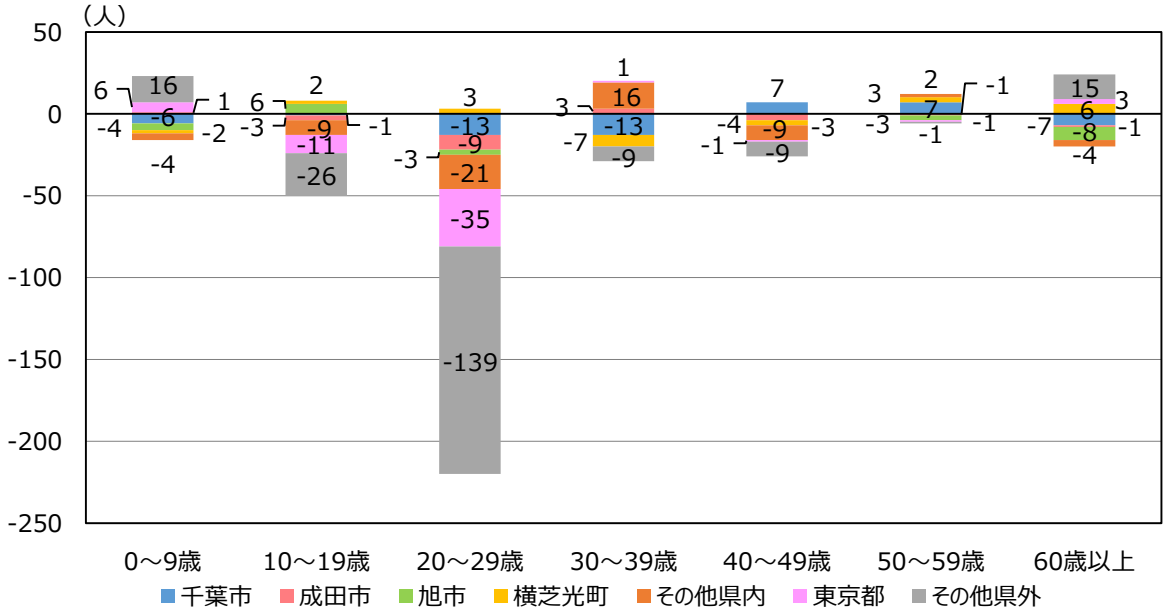
［出典：人口移動統計調査］

■ 転入出数、出生・死亡数の推移



［出典：人口移動統計調査］

■ 年齢別転入・転出の状況（令和５年（2023 年））

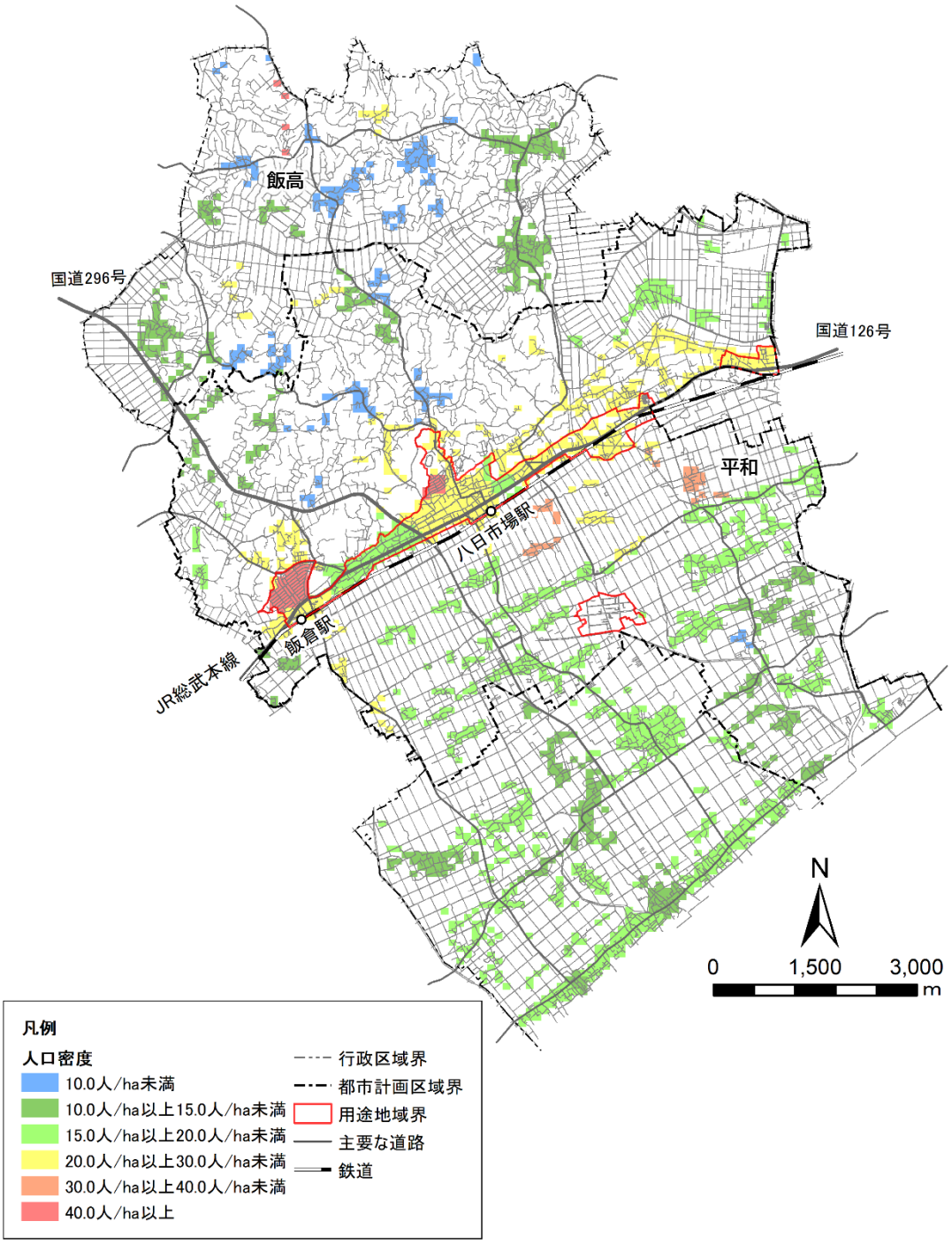


［出典：住民基本台帳人口移動報告］

（4）人口分布

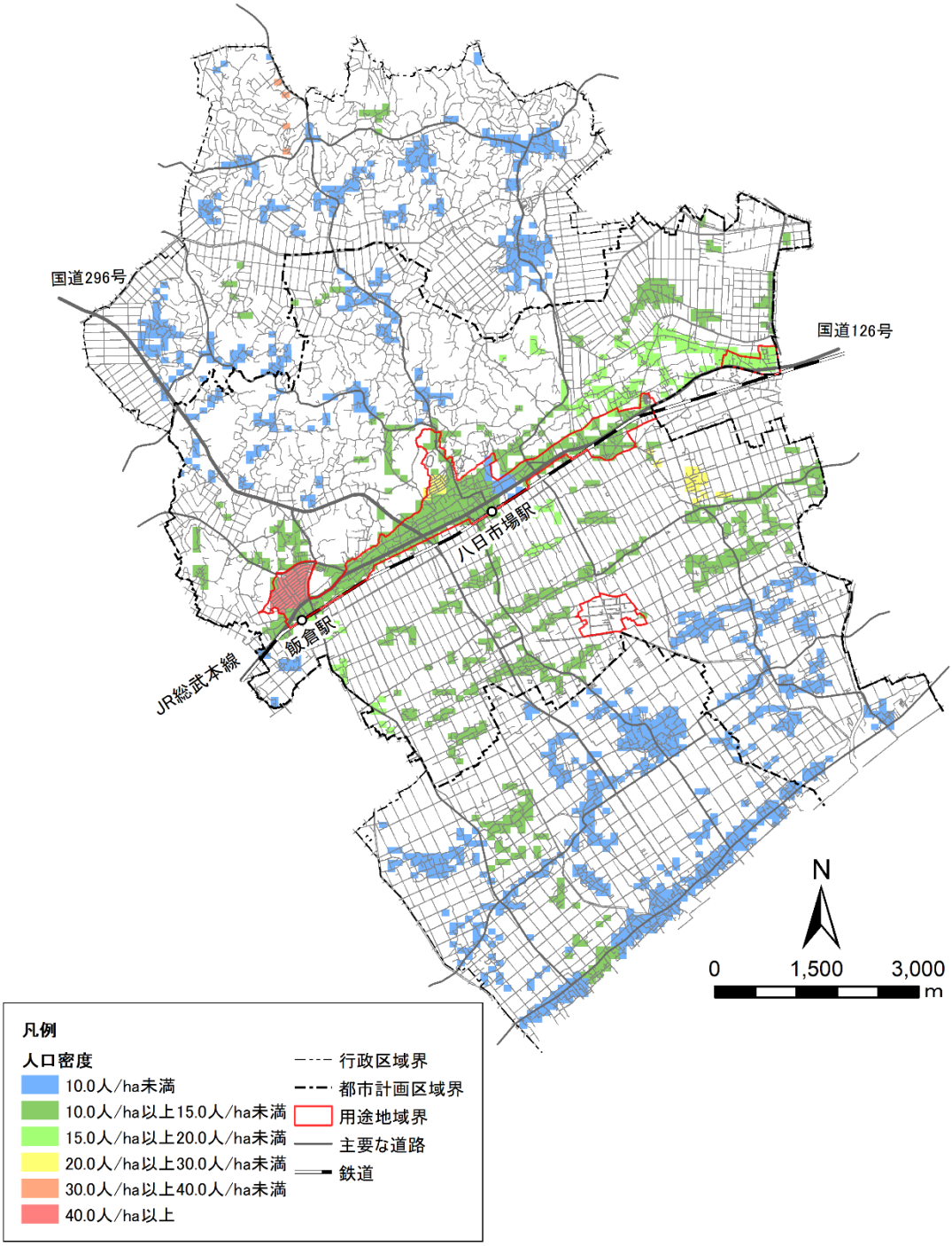
現況人口（令和２年（2020 年））は、八日市場駅周辺、飯倉駅北部の住宅団地、平和地区の農業集落、飯高地区の福祉施設周辺等で人口密度が比較的高くなっています。

■ 現況人口分布図（令和２年（2020 年））



将来人口（令和 27 年（2045 年））においても、現況人口分布図（令和２年（2020 年））と概ね同様の傾向となっていますが、市全域で人口密度が減少しています。特に、八日市場駅北部で人口が大きく減少することが想定されます。

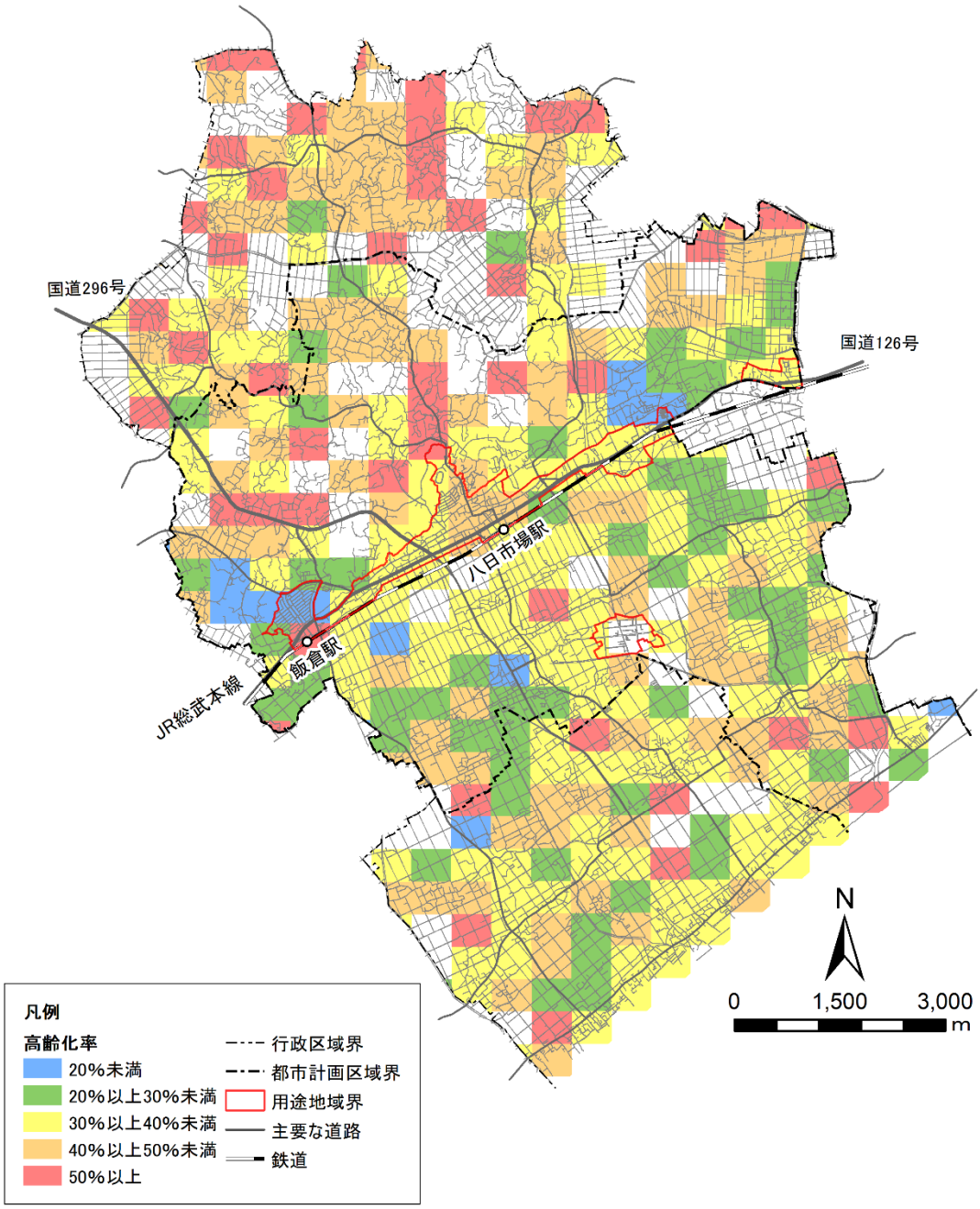
■ 将来人口分布図（令和 27 年（2045 年））



（5）高齢化率状況

令和２年（2020 年）においては、飯倉駅付近の集落や北部の丘陵地の集落、海岸部の集落では高齢化率が 50%以上と高くなっているところがみられます。

■ 高齢化率状況図（令和２年（2020 年））



［出典：国勢調査］

３）産業等

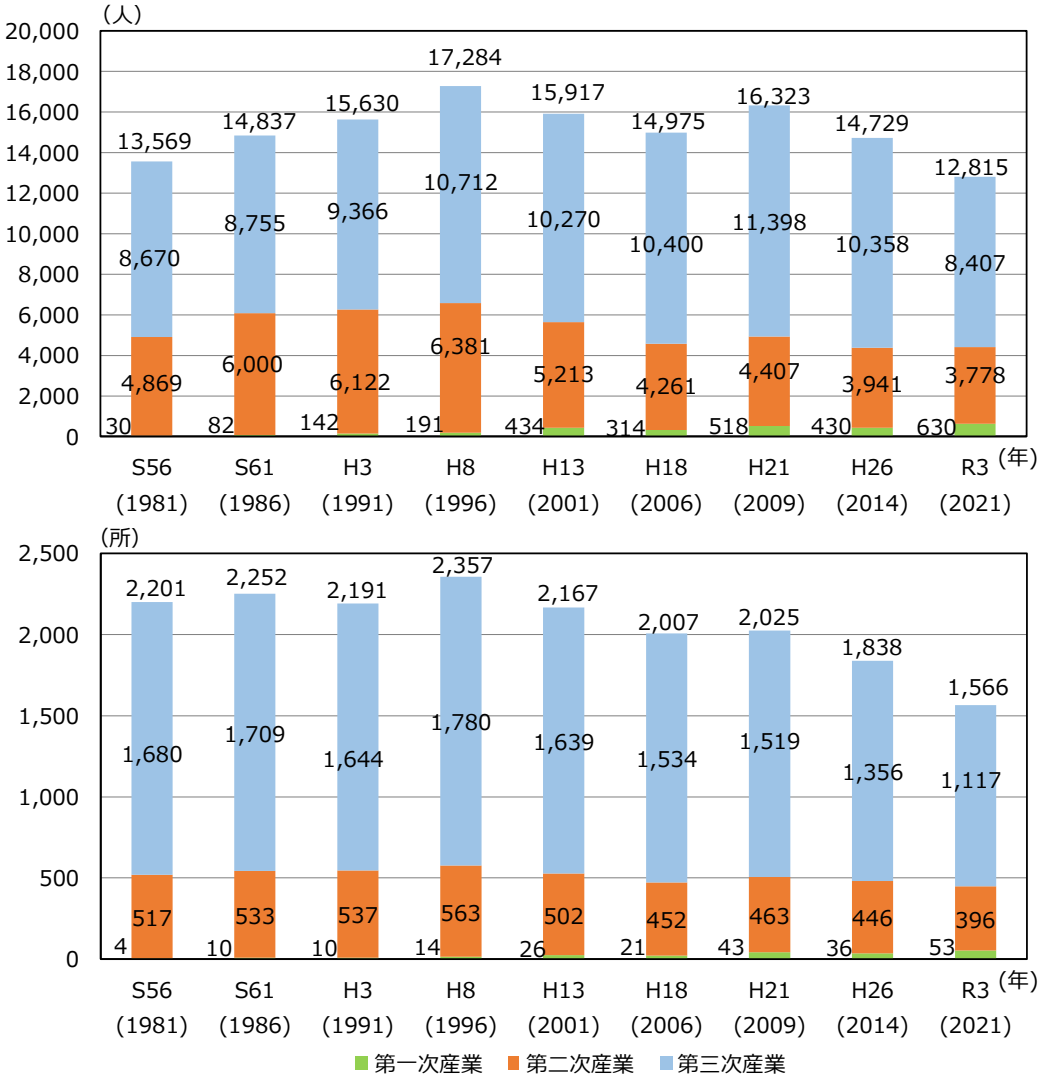
（１）産業

1　事業所数・従業者数

産業３部門別従業者数は、令和３年（2021 年）は、第一次産業が 630 人（構成比 4.9%）、第二次産業が 3,778 人（構成比 29.5%）、第三次産業が 8,407 人（構成比 65.6%）で、第三次産業が主な産業となっています。従業者数は平成８年（1996 年）の 17,284 人をピークに減少傾向にあります。

産業３部門別事業所数は、令和３年（2021 年）は、第一次産業が 53 所（構成比 3.4%）、第二次産業が 396 所（構成比 25.3%）、第三次産業が 1,117 所（構成比 71.3%）であり、全体の推移は従業者数と同様の傾向にあります。

■ 産業３部門別従業者数の推移〔上〕と産業３部門別事業所数の推移〔下〕



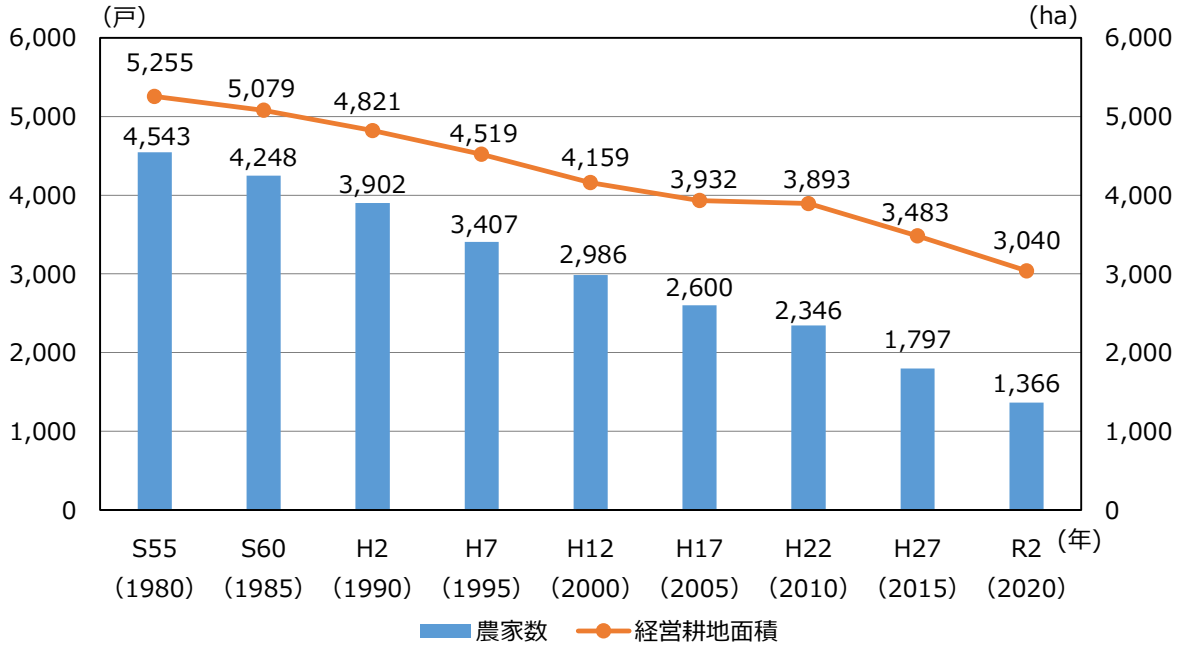
［出典：企業・事業所統計、経済センサス］

2 農業

農家数は減少傾向にあり、令和２年（2020 年）には 1,366 戸と、昭和 55 年（1980 年）の 4,543 戸より約７割の大幅な減少となっています。

経営耕地面積も同様に減少傾向にあり、令和２年（2020 年）には 3,040ｈａと、昭和 55 年（1980 年）の 5,255ｈａより約４割の大幅な減少となっています。

■ 農業の動向

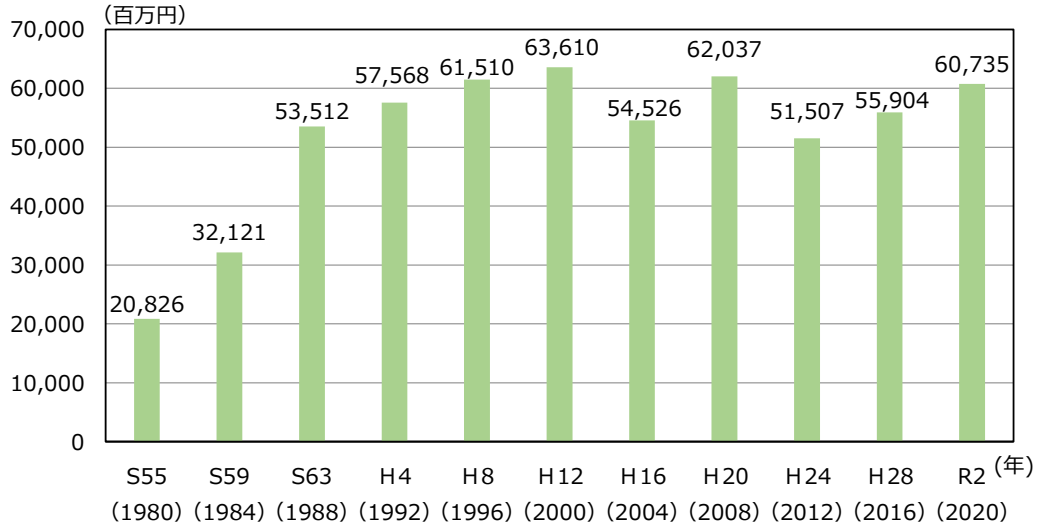


［出典：農林業センサス］

③ 工業

製造品出荷額等は、平成 12 年（2000 年）の約 636 億円をピークに、平成 24 年（2012 年）には一時約 515 億円に減少しましたが、近年再び増加傾向となっています。

■ 工業の動向（製造品出荷額等）

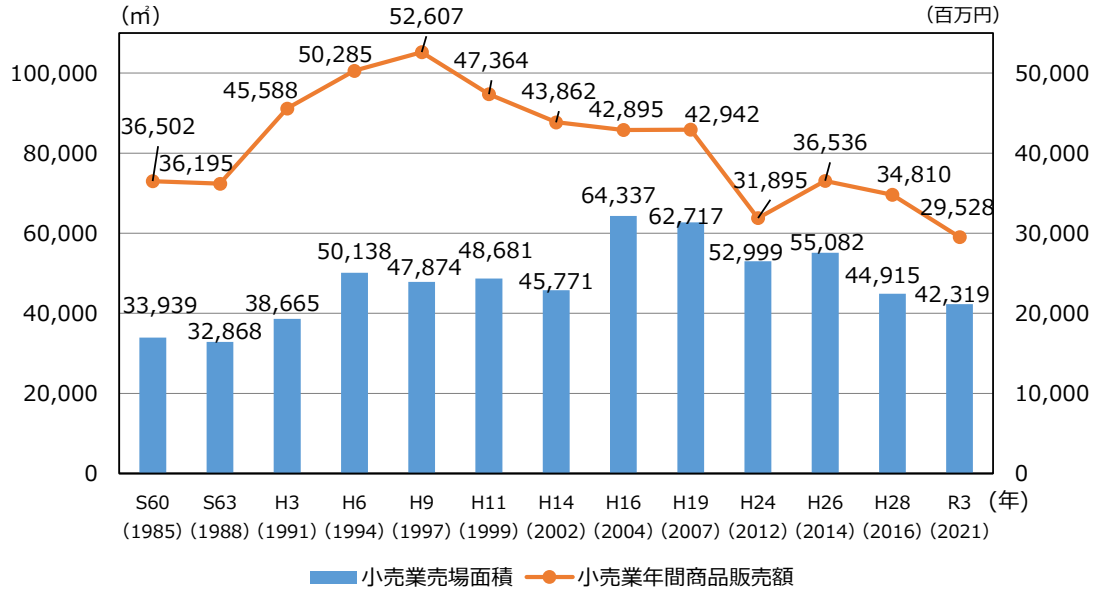


［出典：工業統計、経済センサス］

④ 商業

小売業は、売場面積が平成 16 年（2004 年）の 64,337 ㎡を、年間商品販売額が平成９年（1997 年）の約 526 億円をピークに減少傾向にあります。

■ 小売業の動向(売場面積・年間商品販売額)



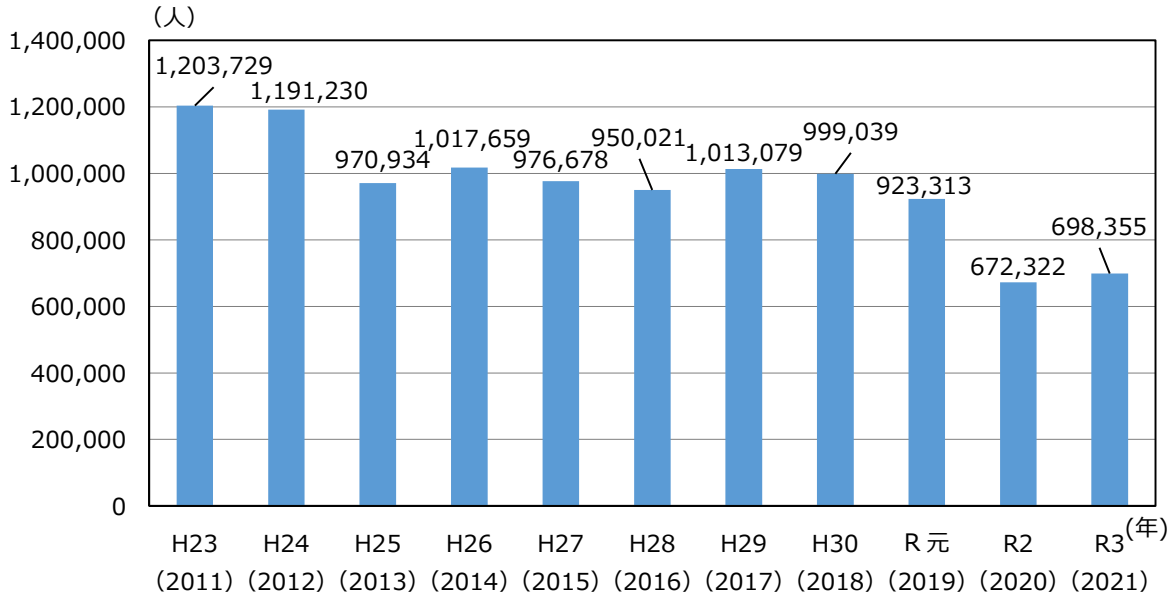
［出典：商業統計、経済センサス］

5 観光

市内観光入込客数は、平成 23 年（2011 年）の 1,203,729 人をピークに減少傾向にあり、平成 25 年（2013 年）から令和元年（2019 年）までは概ね 90 万人から 100 万人で推移しています。

なお、令和２年（2020 年）以降は、新型コロナウイルス感染症の流行により観光客数・宿泊客数ともに大幅に減少したと考えられます。

■ 市内観光入込客数の推移



［出典：千葉県観光入込調査報告書］

（２）通勤・通学

令和２年（2020 年）における市内に常住する通勤・通学者は 16,137 人で、そのうち市内での通勤・通学者は 44.3%の 7,141 人です。市内への通勤・通学者は 13,475 人で、約 2,600 人の流出超過となっています。

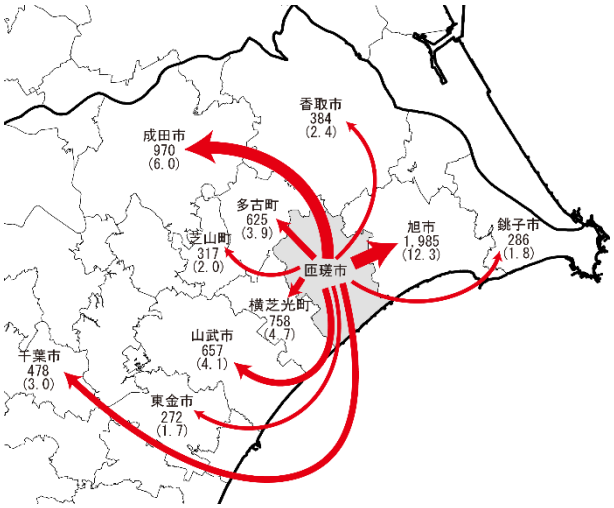
市外への通勤・通学先（常住地ベース）では、旭市が 1,985 人（12.3%）と最も多く、次いで成田市が 970 人（6.0%）となっています。市外からの通勤・通学元（従業地・通学地ベース）では、旭市が 2,639 人（19.6%）と最も多く、次いで横芝光町の 992 人（7.4%）となっています。

流入・流出の両面で旭市との結びつきが強いものとなっています。

■ 通勤・通学流動図（令和２年（2020 年））

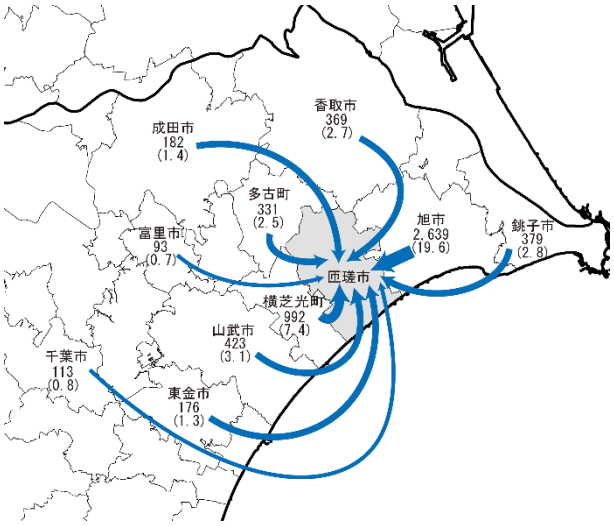
常住地ベース

常住通勤・通学者：16,137 人
匝瑳市内：7,141 人（44.3%）



従業地・通学地ベース

市内通勤・通学者：13,475 人
匝瑳市内：7,141 人（53.0%）



※数字：実数［単位：人］、（　）内は割合［単位：%］
※通勤者：従業の場所が常住の場所（自宅）と異なる就業者

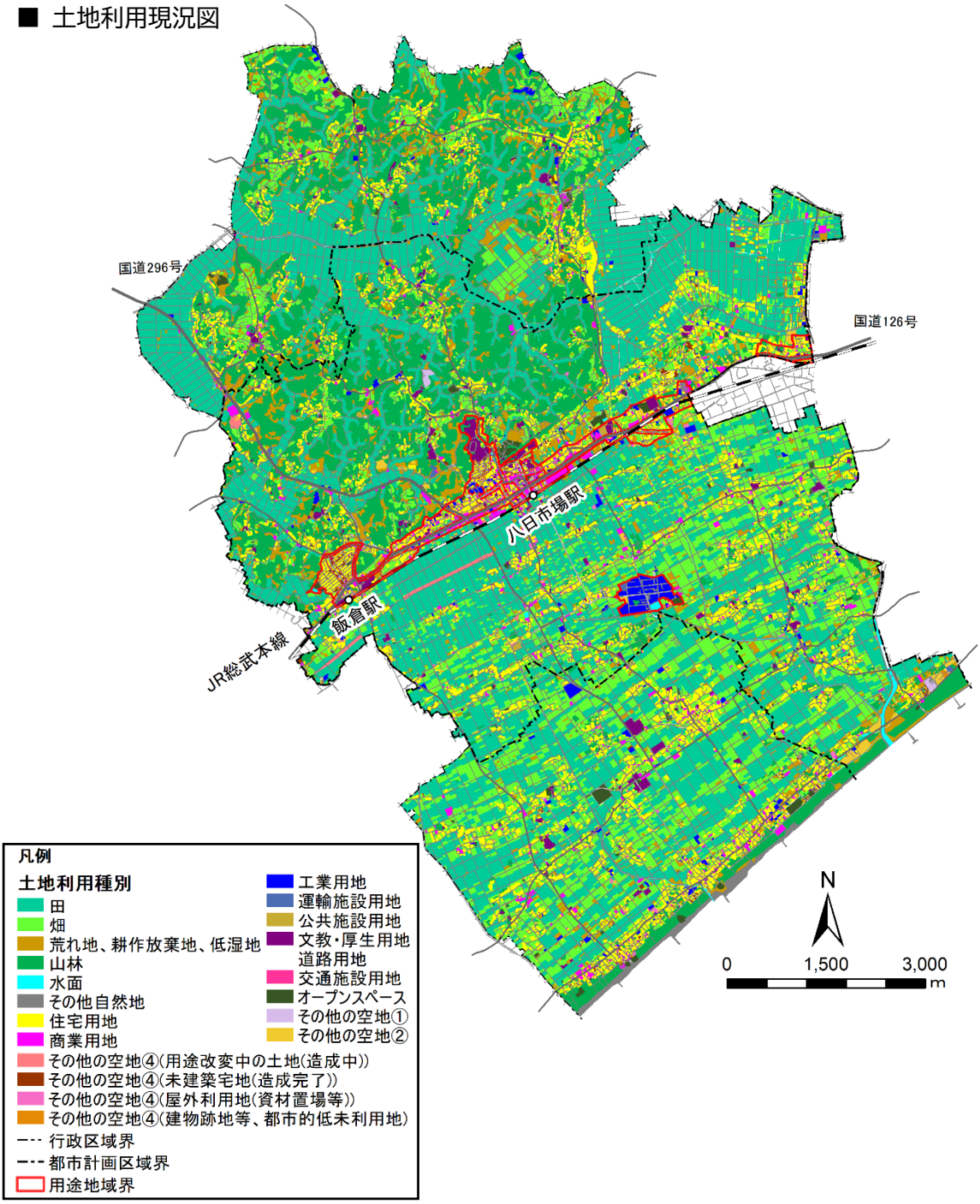
［出典：国勢調査］

3）土地利用

（1）土地利用現況

八日市場駅及び飯倉駅の北部や、市南部の集落では住宅用地が多くみられ、ＪＲ総武本線や国道126号の沿線・沿道では商業用地が多くみられます。また、市北東部や南部ではまとまった田畑がみられ、北部の丘陵地ではまとまった山林がみられます。

■ 土地利用現況図

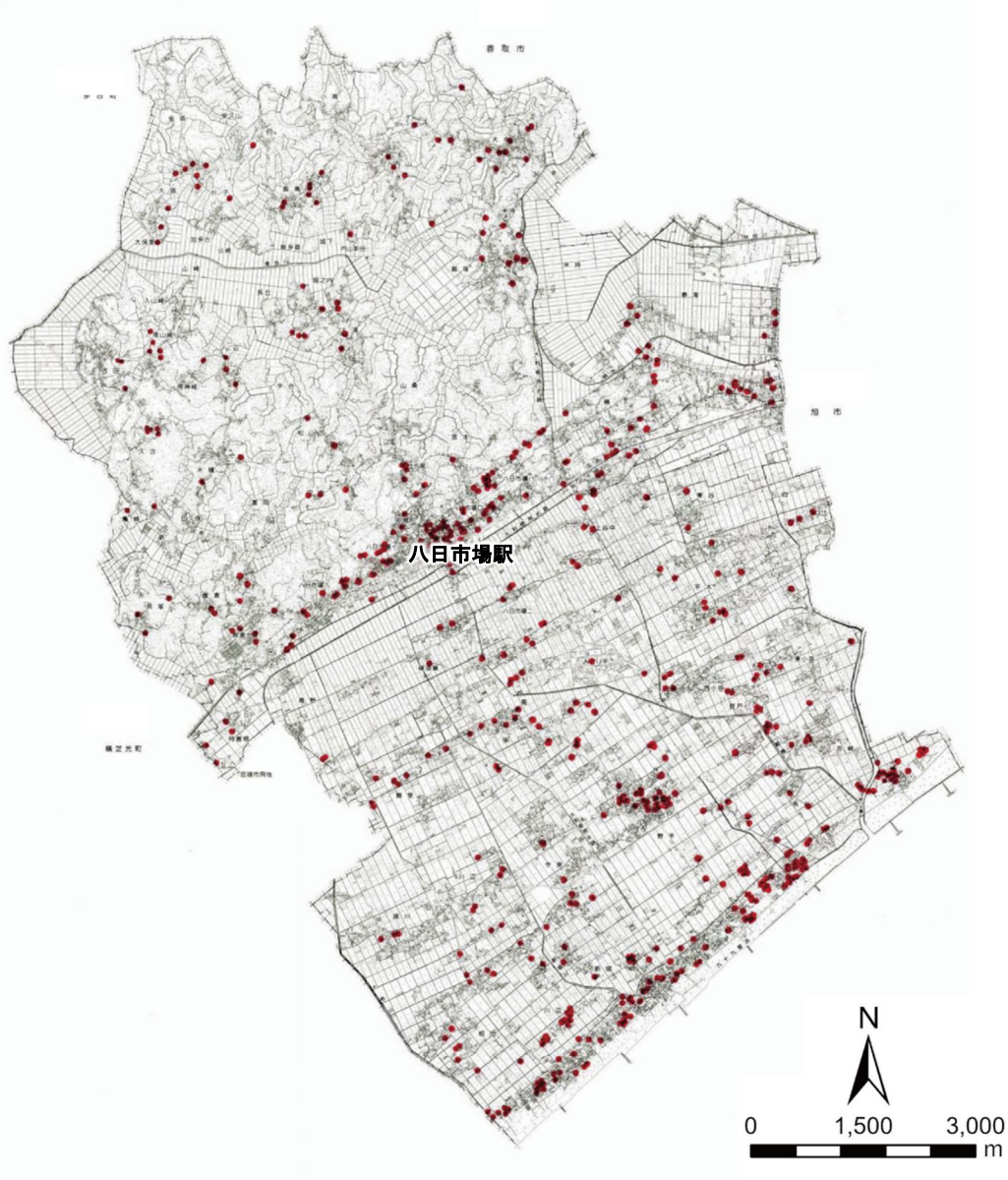


［出典：令和３年度（2021 年度）都市計画基礎調査］

（２）空家等

空家等は市中部から南部にかけて広く分布し、特に、八日市場駅北側や海岸部の集落付近に多くみられます。

■ 空家等の分布図

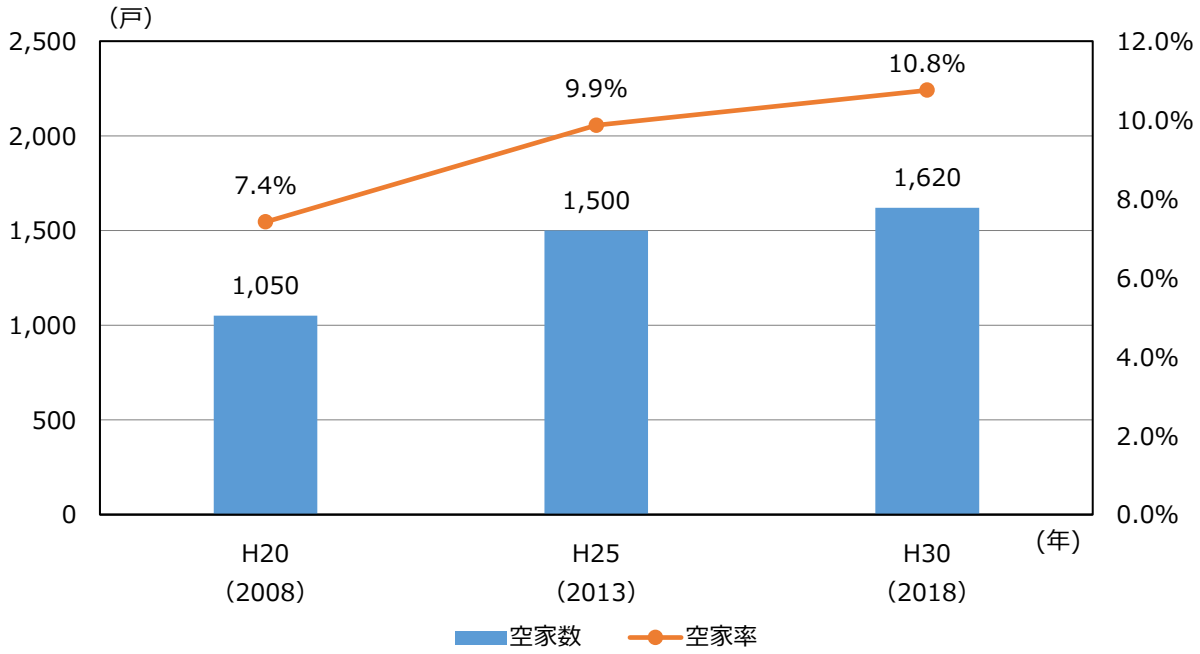


※空家等：建築物又はこれに附属する工作物であって居住その他の使用がなされていないことが常態であるもの及びその敷地（立木その他の土地に定着する物を含む。）をいいます。ただし、国又は地方公共団体が所有し、又は管理するものを除きます。

［出典：第２次匝瑳市空家等対策計画（令和６年（2024 年）３月）］

空家数・空家率（狭義の空家）は、共に増加しており、平成 30 年（2018 年）には、1,620 戸（10.8%）となっています。

■ 空家数・空家率の推移（狭義の空家）



※狭義の空家：二次的住宅（別荘等）、賃貸用の住宅、売却用の住宅以外の人が住んでいない住宅

［出典：住宅・土地統計調査］

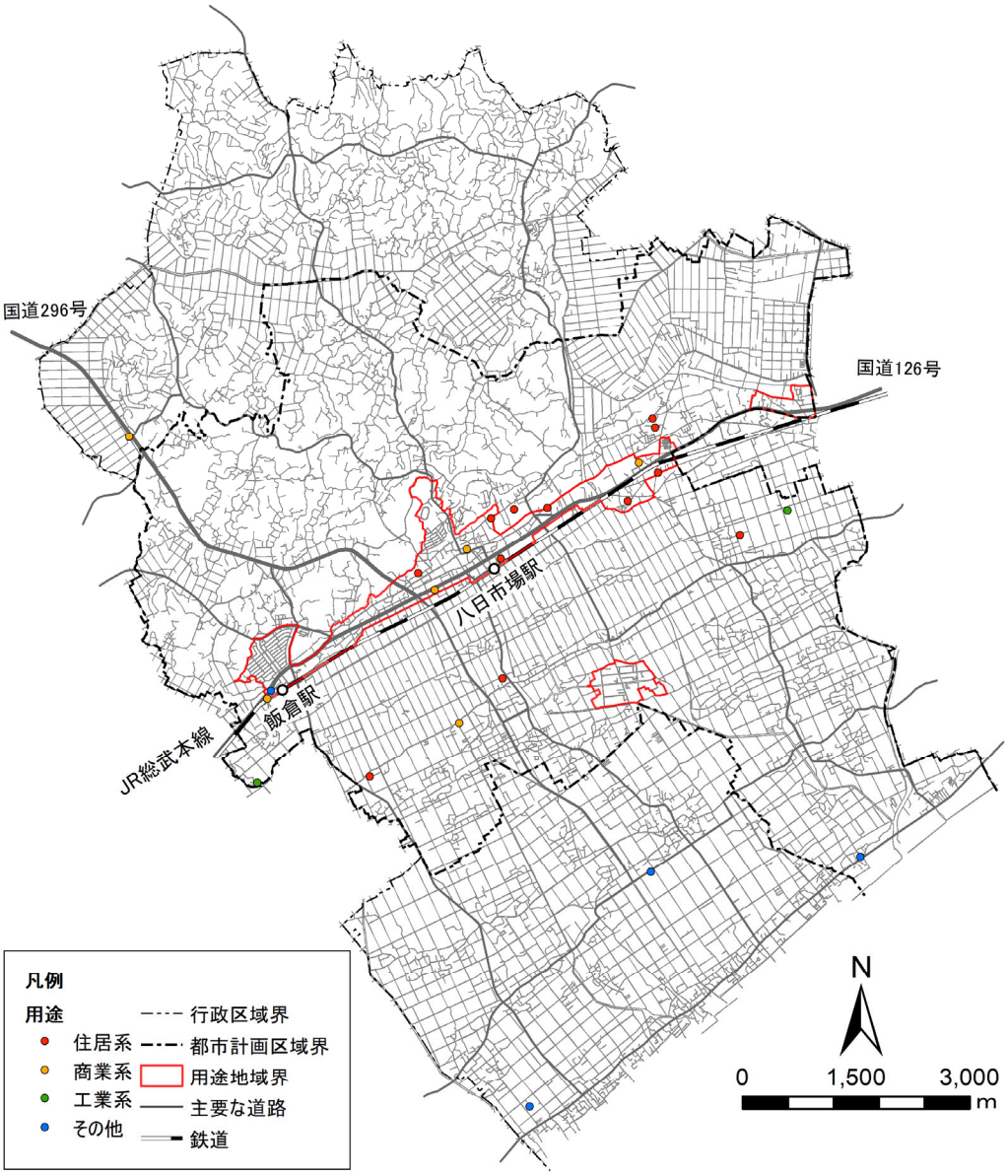
※「第２次匝瑳市空家等対策計画」では、令和６年（2024 年）１月の空家等は 573 戸であり、「住宅・土地統計調査」（平成 30 年（2018 年））における「狭義の空家」1,620 戸とは大きな差があります。この差は、調査方法の違い（前者は「居住その他の使用がなされていないことが常態であるものを現地調査」に対し、後者は「居住世帯のない住宅を抽出調査に基づき推計」）や共同住宅の取り扱いの違い（前者は「全住戸が空き部屋の共同住宅を１棟として数える」のに対し、後者は「空き部屋を１戸の空き家として数える」）等の理由が考えられます。

（３）開発動向等

1 開発動向

平成 25 年度（2013 年度）から令和４年度（2022 年度）までに、開発許可を受けた場所は市中部から南部に点在しています。特に、開発許可件数が多いのは、用途地域内で住居系や店舗等の商業系が集中しています。また、用途地域周辺には住居系、市南部には介護福祉施設や運送事業用倉庫等その他の開発許可が分布しています。

■ 開発許可の分布図

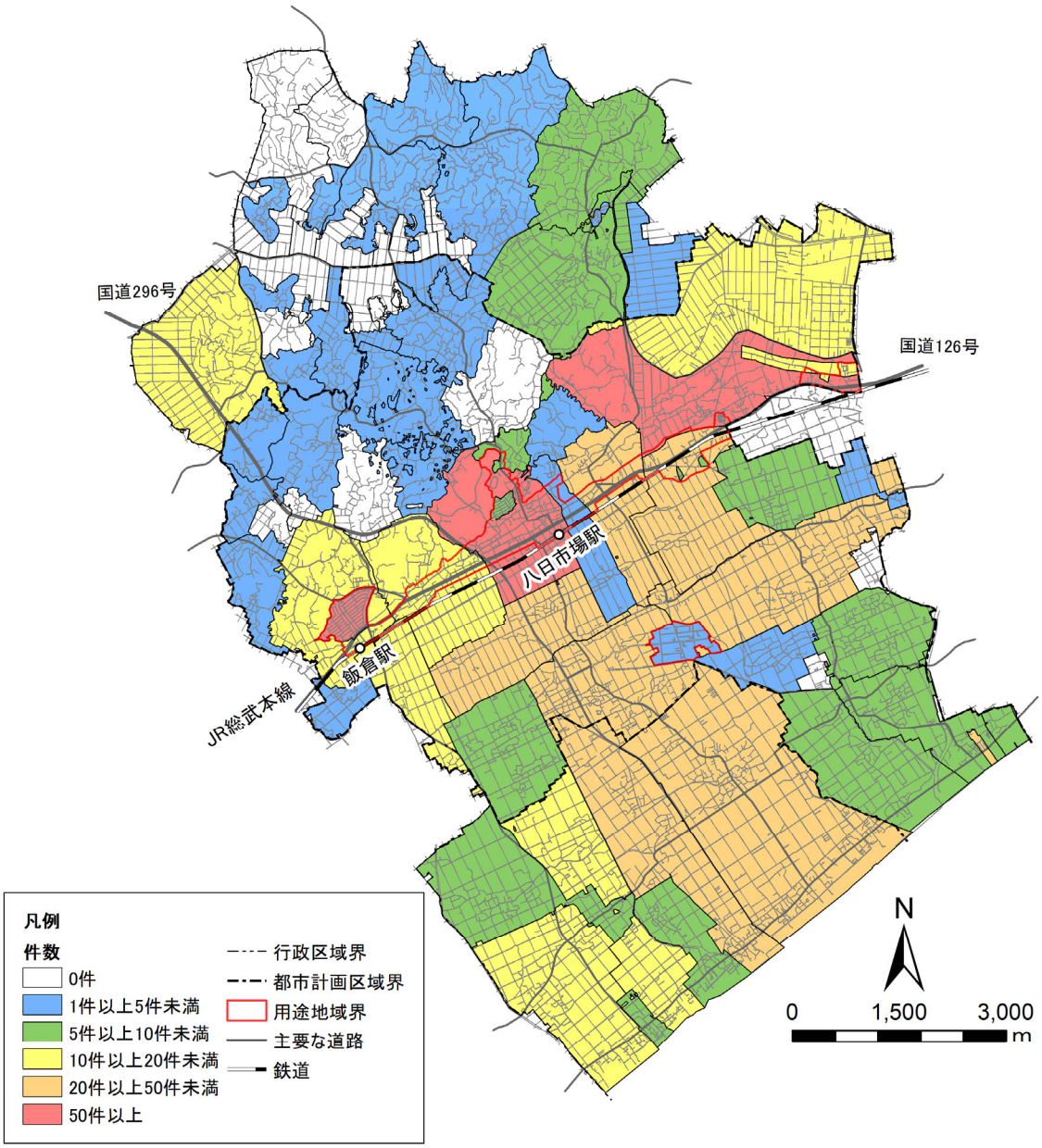


※平成 25 年度（2013 年度）～令和４年度（2022 年度）の開発許可を対象
［出典：匝瑳市］

2 新築動向

新築は八日市場駅周辺や飯倉駅北部の住宅団地、市東部に多くみられ、また、市南部には 20 件以上 50 件未満の地域が多くみられます。

■ 新築件数の分布図（大字単位）



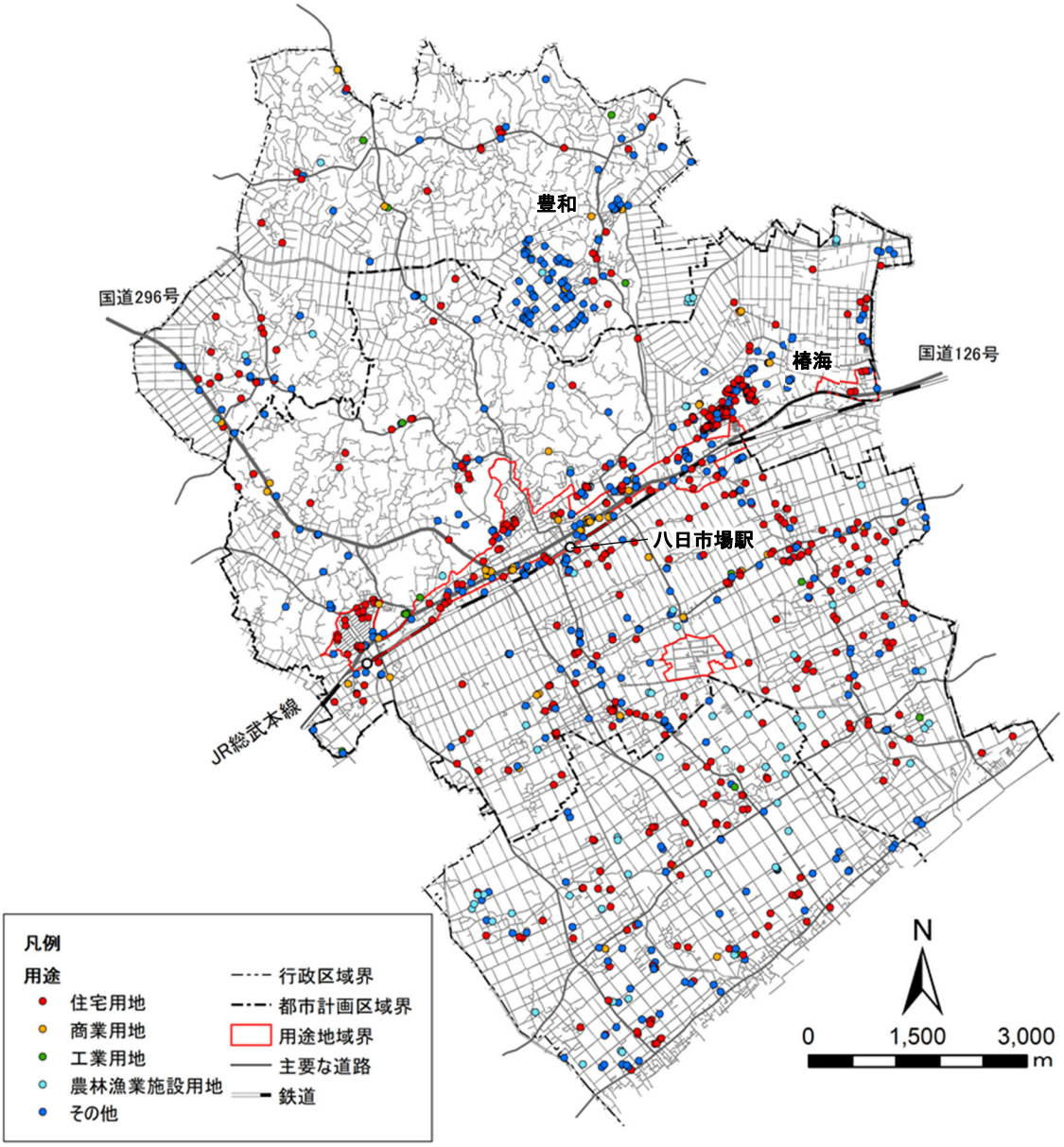
※平成 28 年度（2016 年度）～令和２年度（2020 年度）の新築確認申請を対象
※都市計画区域外では、建築基準法第６条第１項第４号に該当する建築物の建築は建築確認申請が不要となるため、図中の新築件数に含まれない場合があります。

［出典：匝瑳市］

③ 農地転用

市全体で農地転用が広く行われており、特に用途地域内とその周辺に数多く分布しています。また、椿海地区では住宅用地、豊和地区では太陽光発電施設等その他の農地転用が多くみられます。

■ 農地転用の分布図



※平成 18 年度（2006 年度）～令和４年度（2022 年度）の転用許可を対象
［出典：匝瑳市農業委員会］

4）道路・交通

（1）利用交通手段

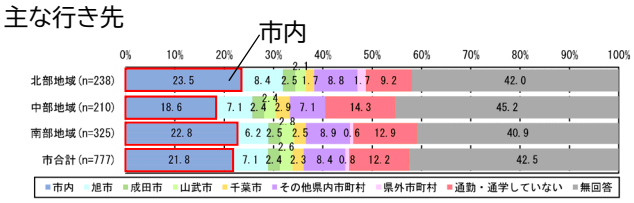
目的別の主な行き先と利用交通手段をみると、通勤通学、買い物、通院では、行き先は「市内」が最も多く、利用交通手段は「自分で車を運転」が最も多くみられます。公共施設利用では、行き先は「市内」が「市外」よりも多いものの「ほとんど行かない」が最も多く、利用交通手段は「自分で車を運転」が最も多い状況です。

このように、目的別の主な行き先は「市内」が多く、利用交通手段は「自分で車を運転」が多い傾向にあります。中部地域では「自転車」、「徒歩」等の利用交通手段も比較的多くみられます。

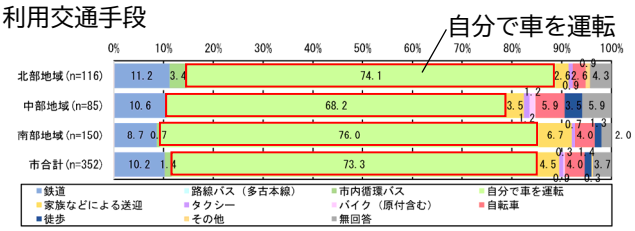
■ 目的別の主な行き先と利用交通手段

通勤通学

主な行き先

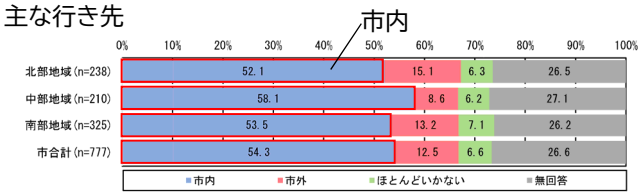


利用交通手段

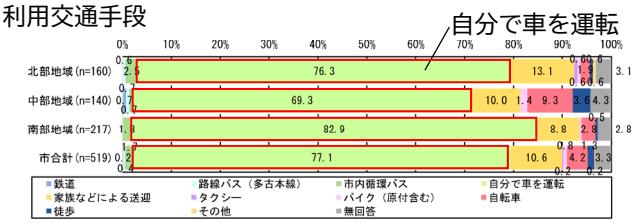


買い物

主な行き先

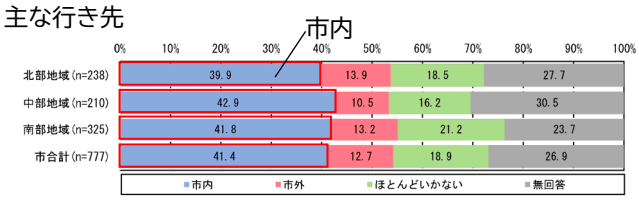


利用交通手段

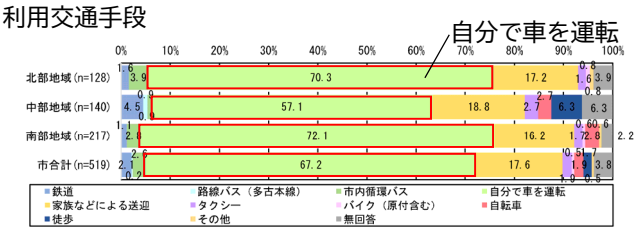


通　院

主な行き先

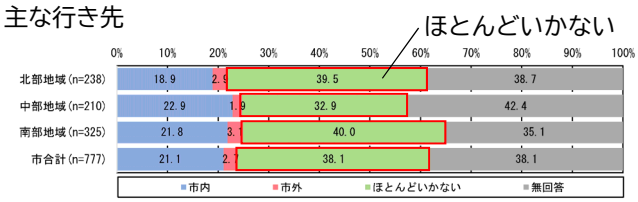


利用交通手段

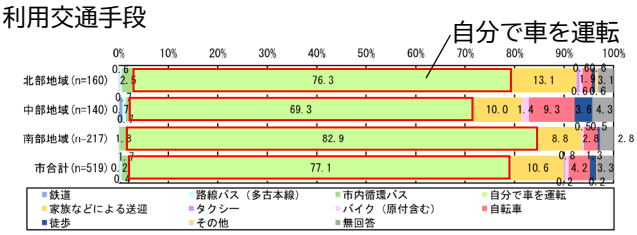


公共施設利用

主な行き先



利用交通手段



［出典：匝瑳市地域公共交通計画(令和３年（2021 年）３月)］

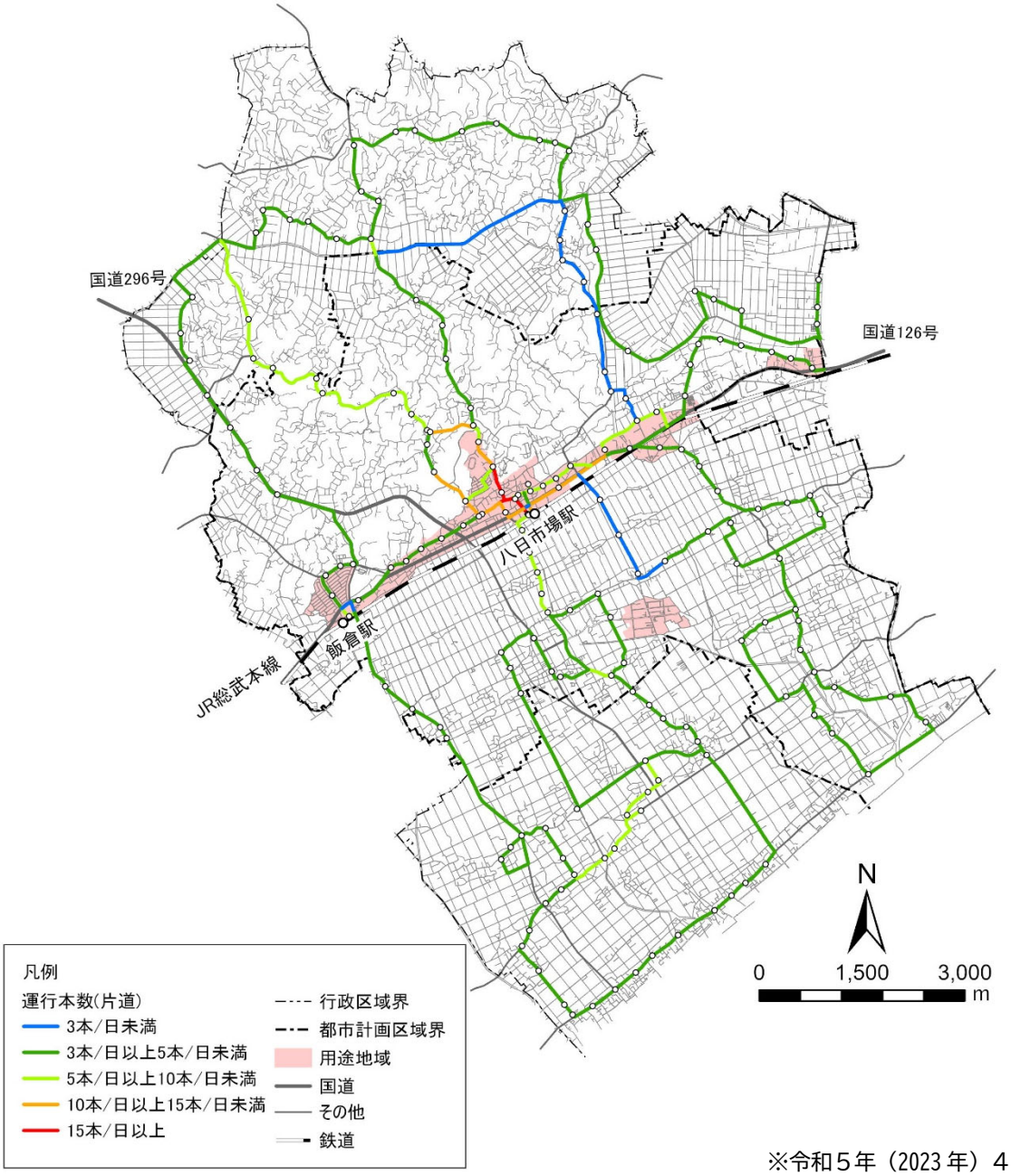
（２）公共交通

1 公共交通ネットワーク

令和５年（2023 年）４月における市内の公共交通は、ＪＲ総武本線（八日市場駅及び飯倉駅）があるほか、ＪＲ成田駅とＪＲ八日市場駅を結ぶ路線バス（１路線）、市内循環バス（５路線）及び市内全域を対象としたデマンド型交通が運行しています。

路線バス及び市内循環バスは、概ね１日に片道３本以上運行しています。

■ バス運行本数図（路線バス及び市内循環バス）

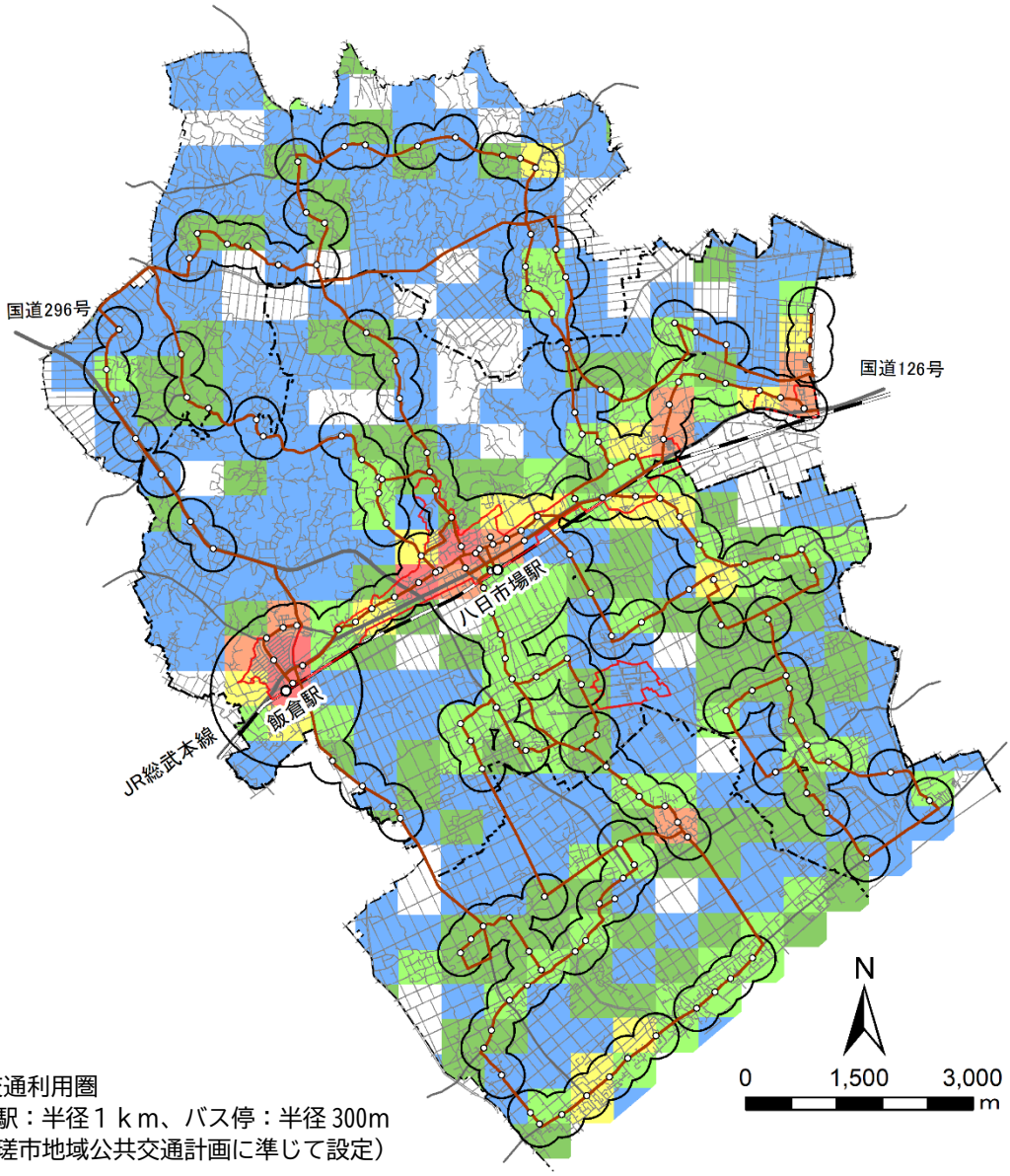


※令和５年（2023 年）４月時点

［出典：匝瑳市、ジェイアールバス関東株式会社ＨＰ］

令和５年（2023 年）４月における公共交通利用圏は用途地域の大部分をカバーし、用途地域外でも令和２年（2020 年）における人口密度が 5.0 人／ｈａ以上の地域の大部分をカバーしています。

■ 公共交通利用圏と人口分布図（令和２年（2020 年））



※公共交通利用圏
鉄道駅：半径１ｋｍ、バス停：半径 300m
（匝瑳市地域公共交通計画に準じて設定）

凡例

○ バス停	人口密度	行政区域界
バス路線	2.5人/ha未満	都市計画区域界
○ 鉄道駅	2.5人/ha以上5.0人/ha未満	用途地域界
鉄道	5.0人/ha以上10.0人/ha未満	主要な道路
公共交通利用圏	10.0人/ha以上15.0人/ha未満	
	15.0人/ha以上20.0人/ha未満	
	20.0人/ha以上	

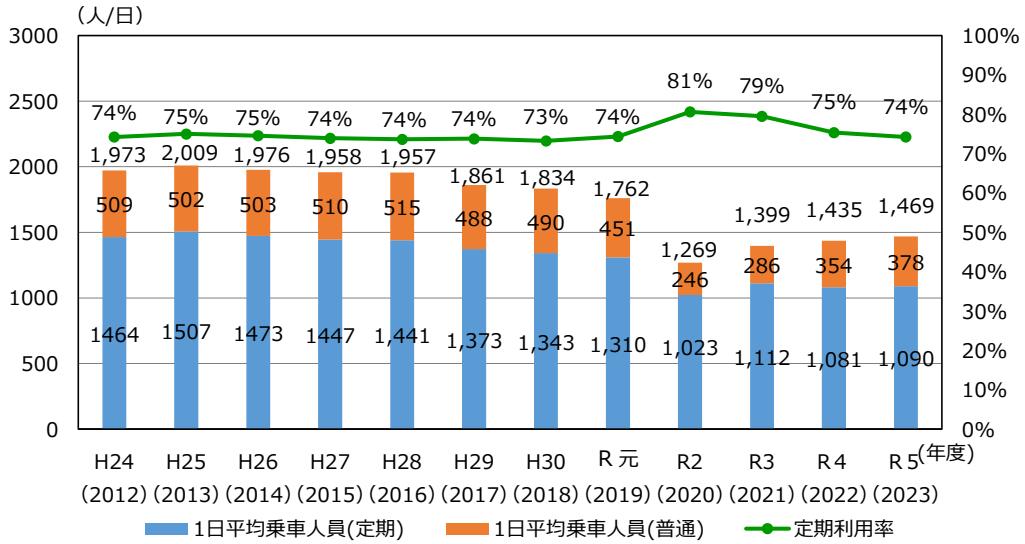
［出典：匝瑳市、ジェイアールバス関東株式会社ＨＰ、国勢調査］

② 公共交通の利用状況

八日市場駅の乗車人員は、平成 25 年度（2013 年度）の 2,009 人／日をピークに減少傾向にあり、令和２年度（2020 年度）には新型コロナウイルス感染症の影響で 1,269 人／日と大幅に落ち込みました。

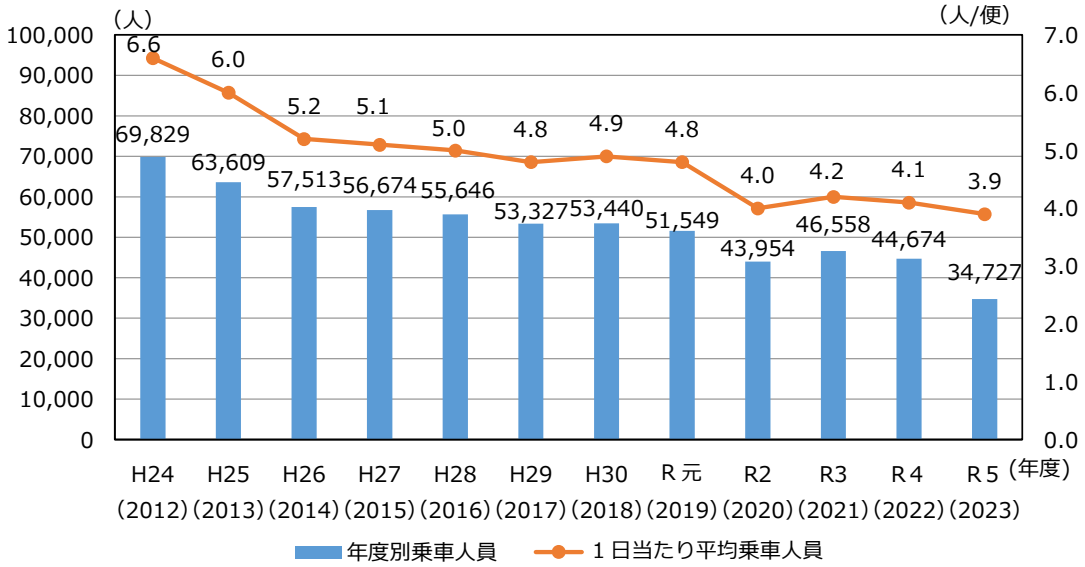
市内循環バス乗車人員の推移は、平成 24 年度（2012 年度）の 69,829 人をピークに概ね減少傾向にあり、令和５年度（2023 年度）は１日当たりの便数を減じたこともあり 34,727 人に減少しました。

■ 八日市場駅の乗車人員の推移



［出典：千葉県統計年鑑、東日本旅客鉄道株式会社］

■ 市内循環バス乗車人員の推移



［出典：匝瑳市］

5）都市機能

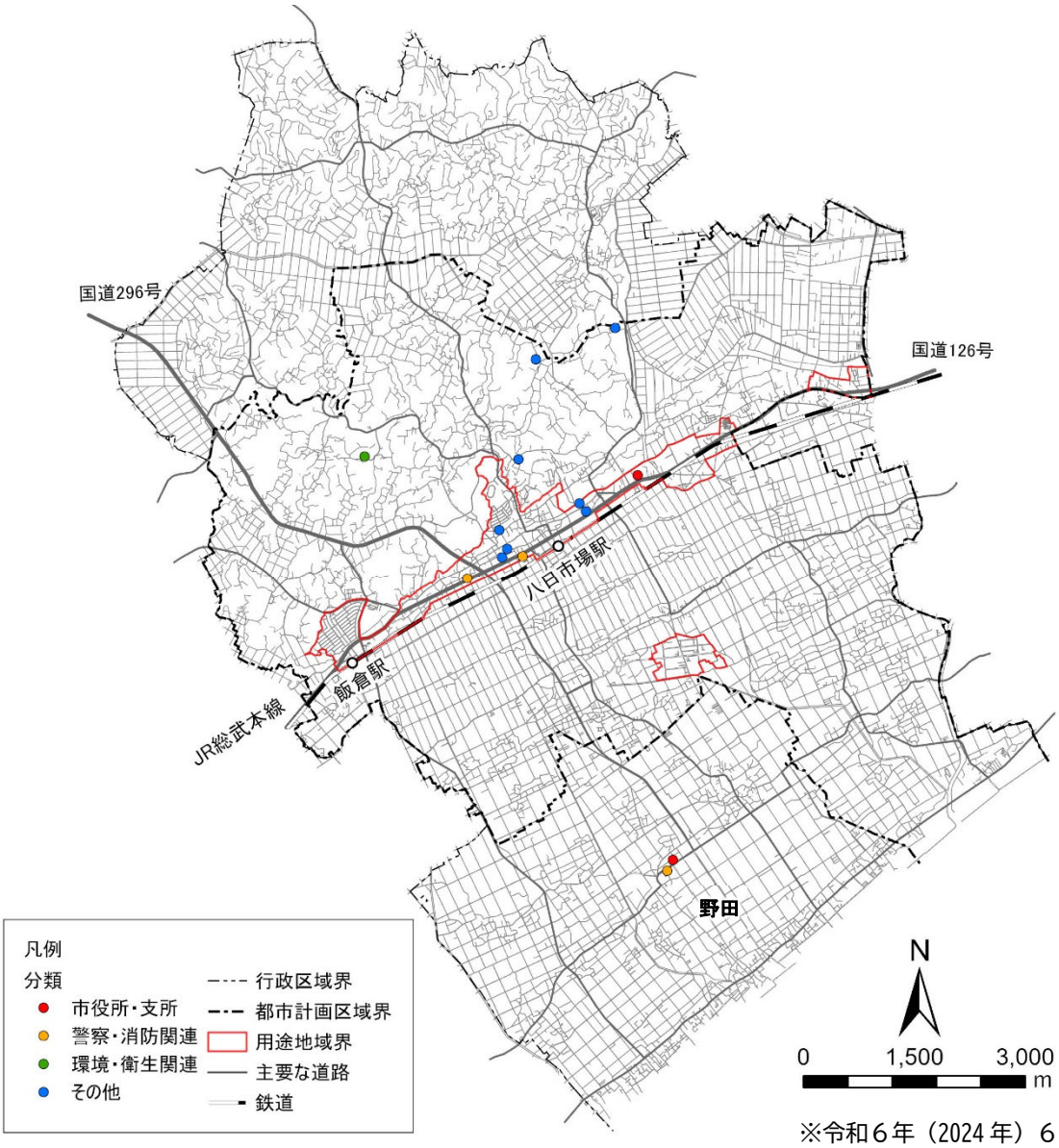
（1）施設立地

1 行政機能

市役所・支所２施設、警察・消防関連３施設、環境・衛生関連１施設、その他８施設の計 14 施設があります。

多くの施設は用途地域内に集中しています。また、野田地区には、市役所支所及び消防署分署があります。

■ 行政機能の施設位置図



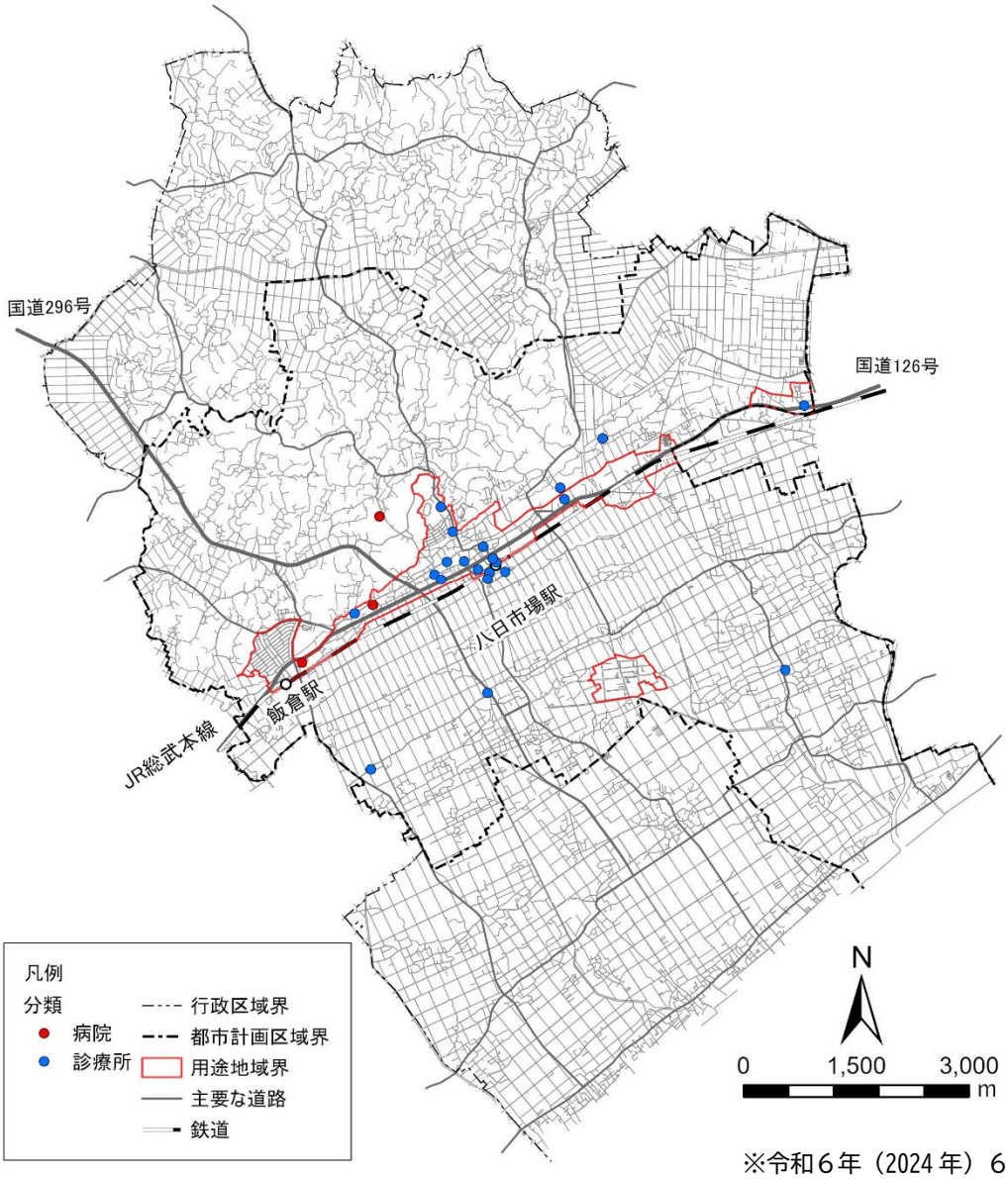
※令和６年（2024 年）６月確認

［出典：匝瑳市］

② 医療機能

病院３施設、診療所 21 施設があります。
多くの施設は用途地域内に集中し、用途地域外は施設数が少ない状況となっています。

■ 医療機能の施設位置図



※令和６年（2024 年）６月確認

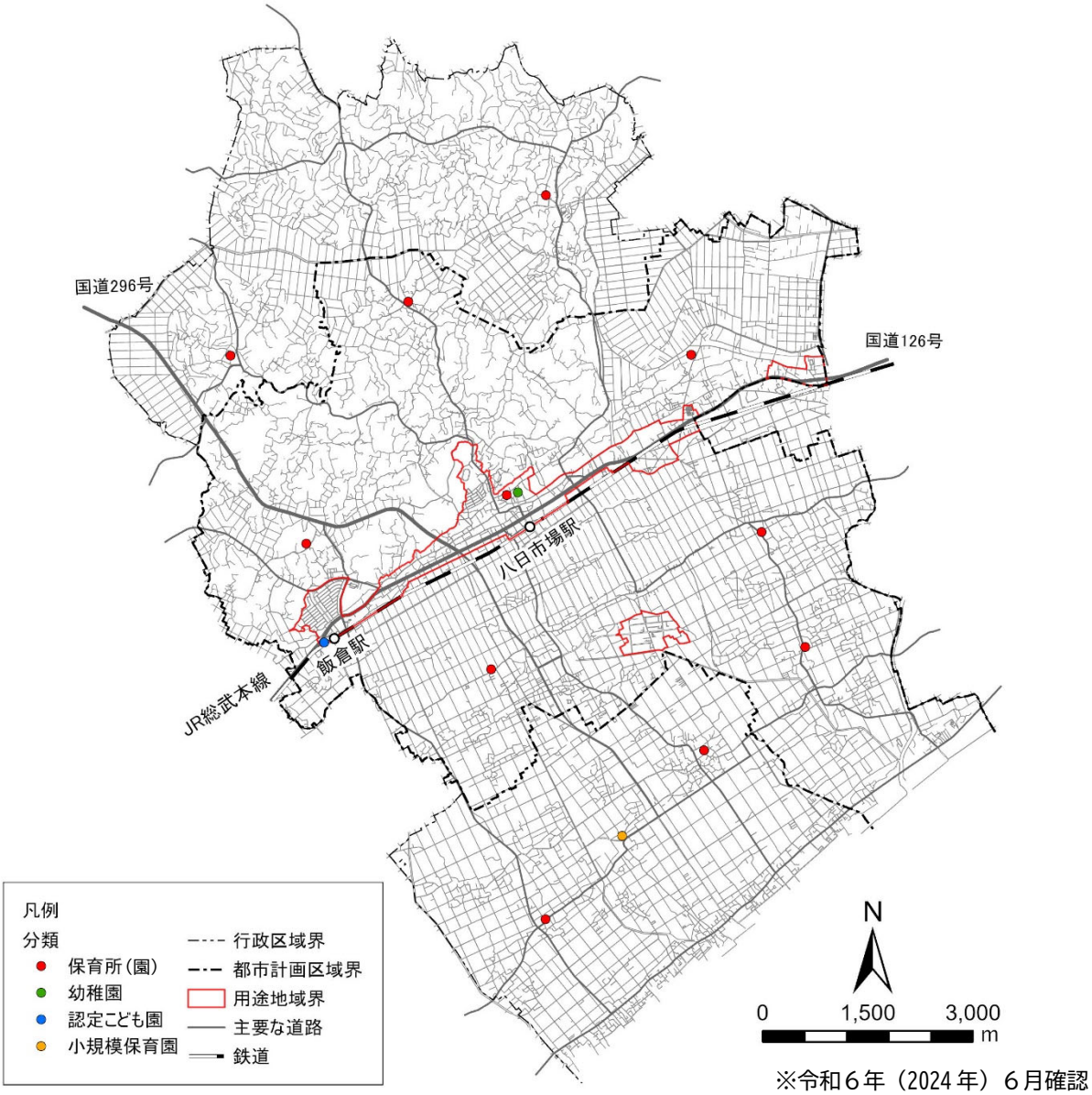
［出典：日本医師会地域医療情報システム］

3 子育て機能

保育所（園）11 施設、幼稚園１施設、認定こども園１施設、小規模保育園１施設の計 14 施設があります。

子育て施設は、市内に広く点在しています。

■ 子育て機能の施設位置図



※令和６年（2024 年）６月確認

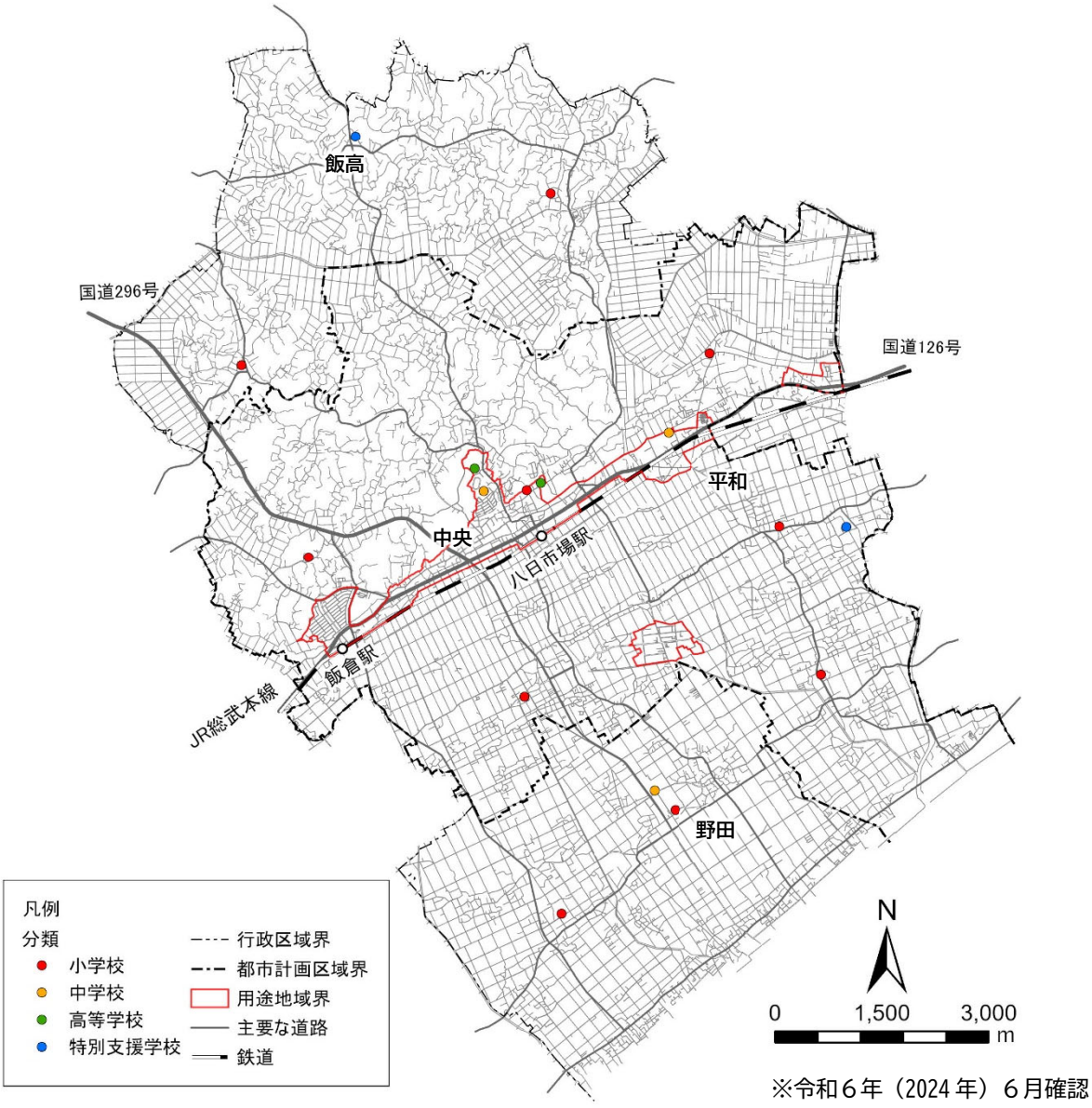
［出典：匝瑳市］

4 教育機能

小学校 10 施設、中学校３施設、高等学校２施設、特別支援学校２施設の計 17 施設があります。

小学校は概ね市内全体に、中学校は中央地区、平和地区、野田地区に、高等学校は中央地区に、特別支援学校は平和地区と飯高地区に立地しています。

■ 教育機能の施設位置図



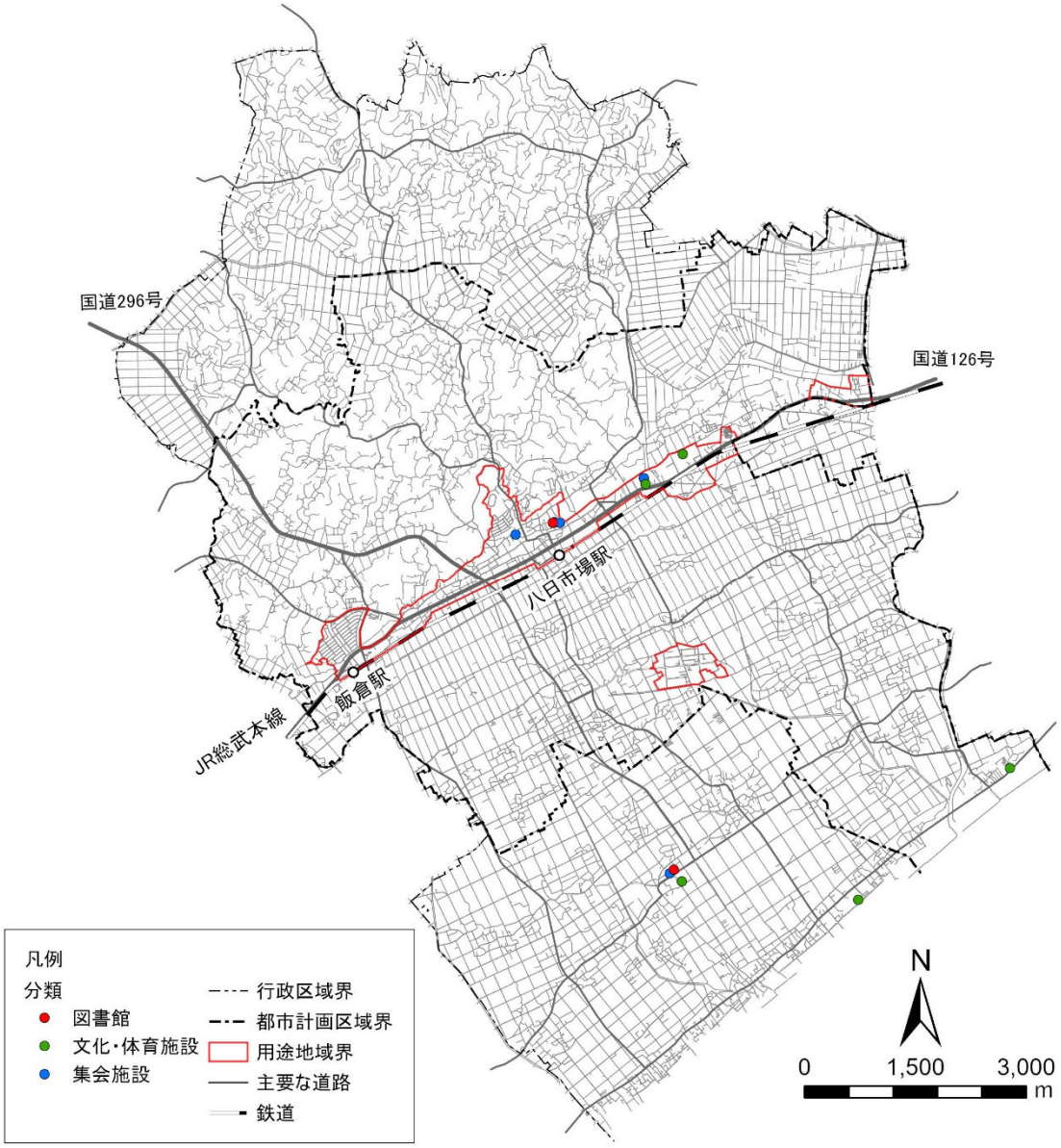
※令和６年（2024 年）６月確認

［出典：匝瑳市］

5 文化機能

図書館２施設、文化・体育施設５施設、集会施設４施設の計 11 施設があります。
文化施設は、中央地区と野田地区を中心に立地しています。

■ 文化機能の施設位置図



※令和６年（2024 年）６月確認

［出典：匝瑳市］

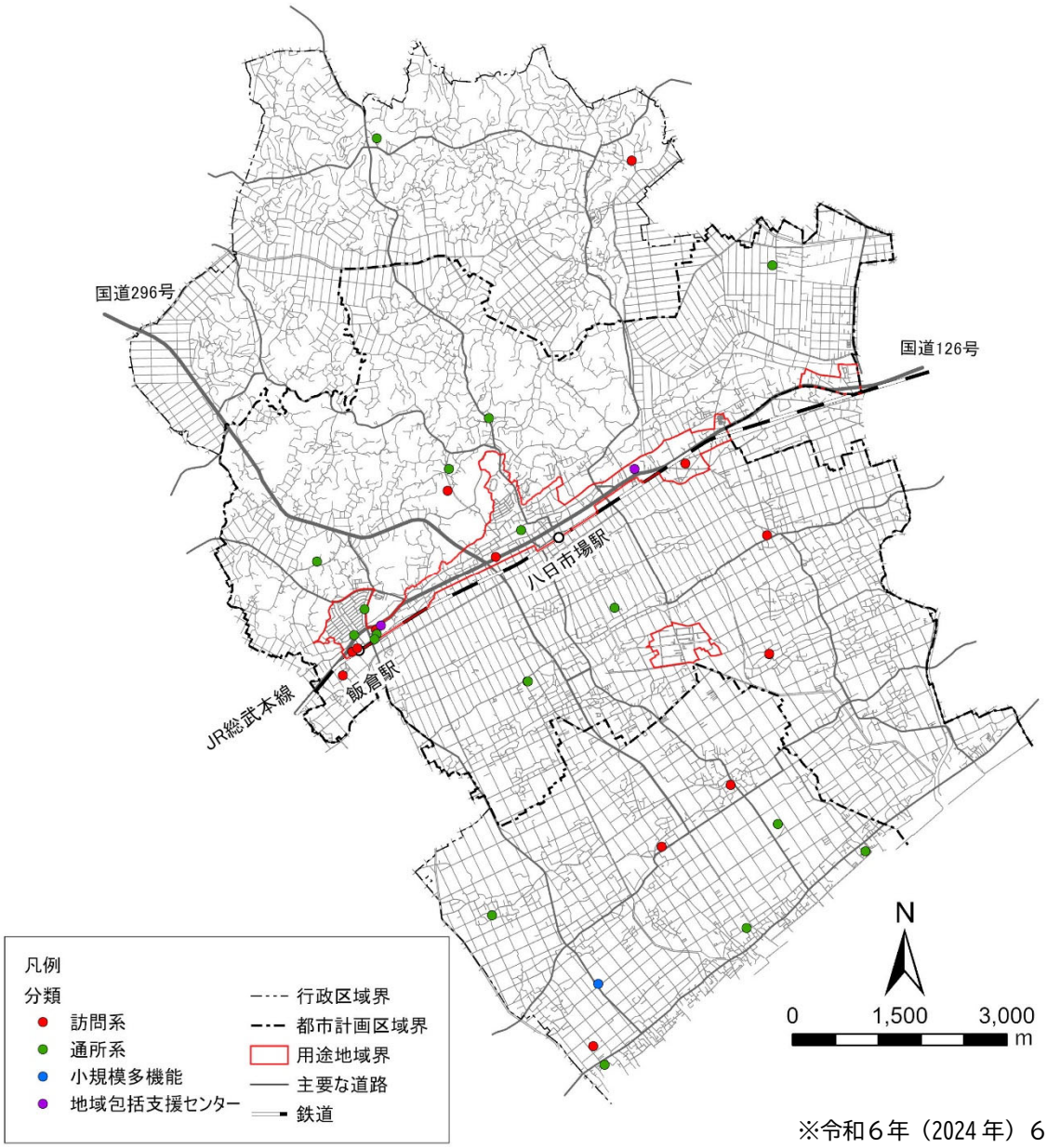
※八日市場公民館と市民ふれあいセンターは、集会施設の機能に加え文化・体育施設の機能を有していますが、主たる機能である集会施設として表示しています。

6 介護福祉機能

訪問系 16 施設、通所系 18 施設、小規模多機能１施設、地域包括支援センター２施設の計 37 施設があります。

施設は、飯倉駅の周辺に多く集中し、市南部にも広く点在しています。一方、北部は少ない状況となっています。

■ 介護福祉機能の施設位置図



※令和６年（2024 年）６月確認

［出典：厚生労働省介護サービス情報公表システム］

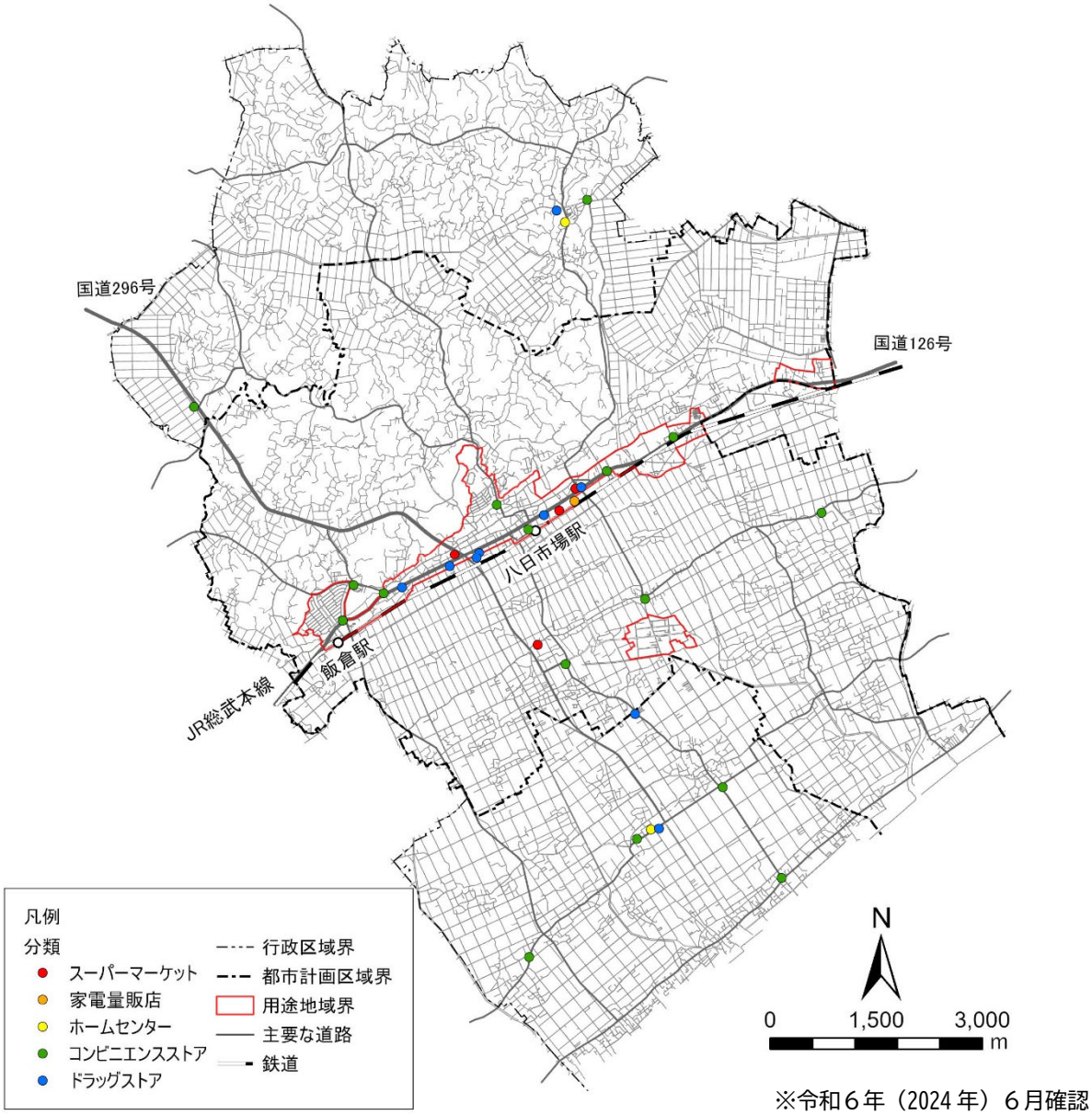
※上記の小規模多機能（１施設）は、令和６年９月 30 日をもって廃止しました。

7 商業機能

スーパーマーケット４店、家電量販店１店、ホームセンター２店、コンビニエンスストア 16 店、ドラッグストア９店の計 32 店があります。

施設は国道 126 号沿いに集中しています。また、コンビニエンスストアは市内に広く点在しています。

■ 商業機能の施設位置図



※令和６年（2024 年）６月確認

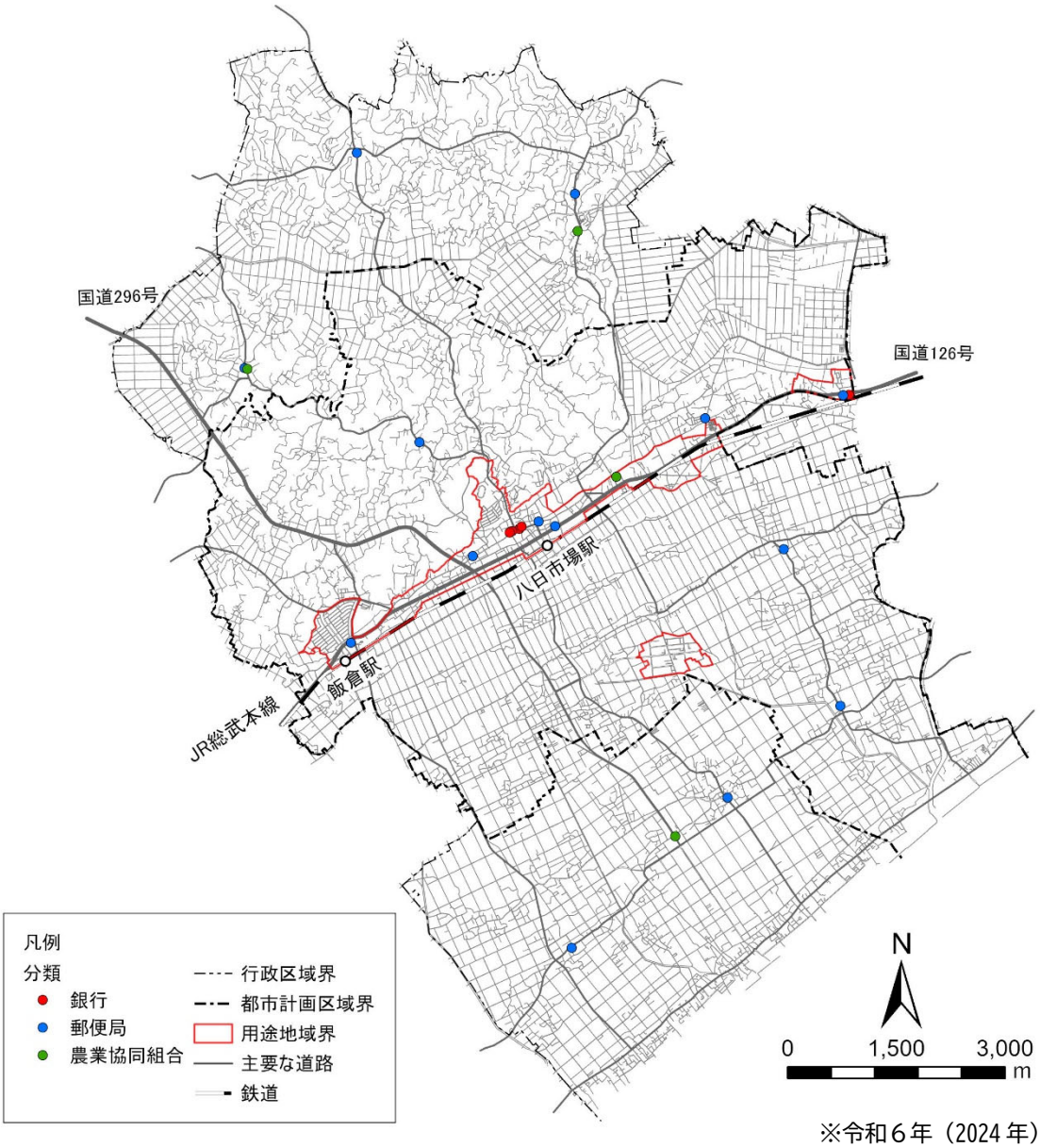
［出典：千葉県大規模小売店舗市町村別名簿、ｉタウンページ］

8 金融機能

銀行５施設、郵便局（簡易郵便局含む。）14 施設、農業協同組合４施設の計 23 施設があります。

銀行は八日市場駅の周辺に多く集中しています。また、郵便局や農業協同組合は市内に広く点在しています。

■ 金融機能の施設位置図



※令和６年（2024 年）６月確認

［出典：匝瑳市、日本郵政グループＨＰ］

（2）財政

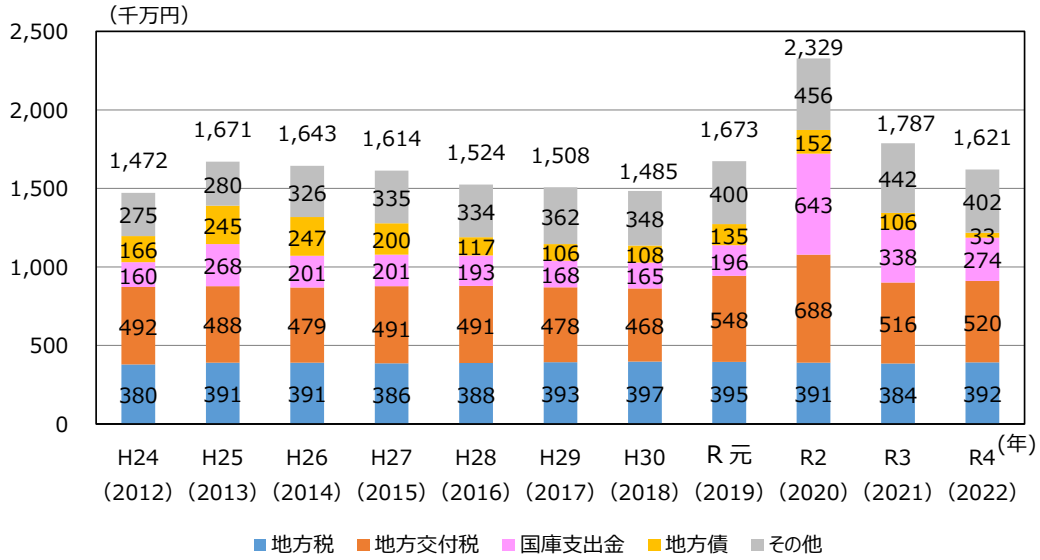
1 歳入・歳出

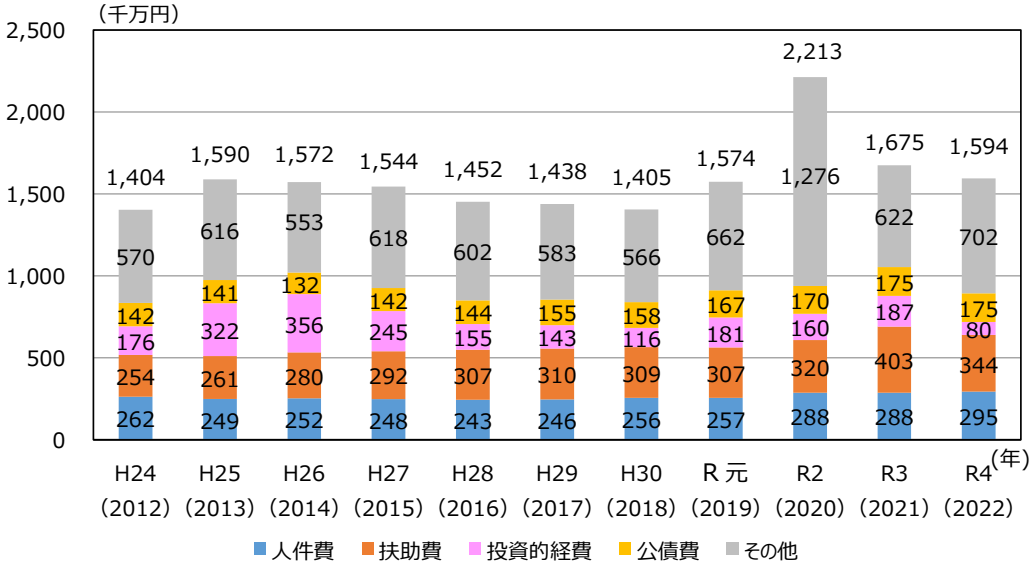
歳入額は、令和２年度（2020 年度）を除き、約 150 億円～180 億円で推移し、内訳は地方交付税が最も多くなっています。

歳出額は、令和２年度（2020 年度）を除き、約 140 億円～170 億円で推移し、内訳は、その他を除くと扶助費が最も多くなっています。

なお、令和２年度（2020 年度）は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う補助金等の影響で、歳入・歳出ともに大幅に増加しています。

■ 歳入額の推移（一般会計）〔上〕と歳出額の推移（一般会計）〔下〕





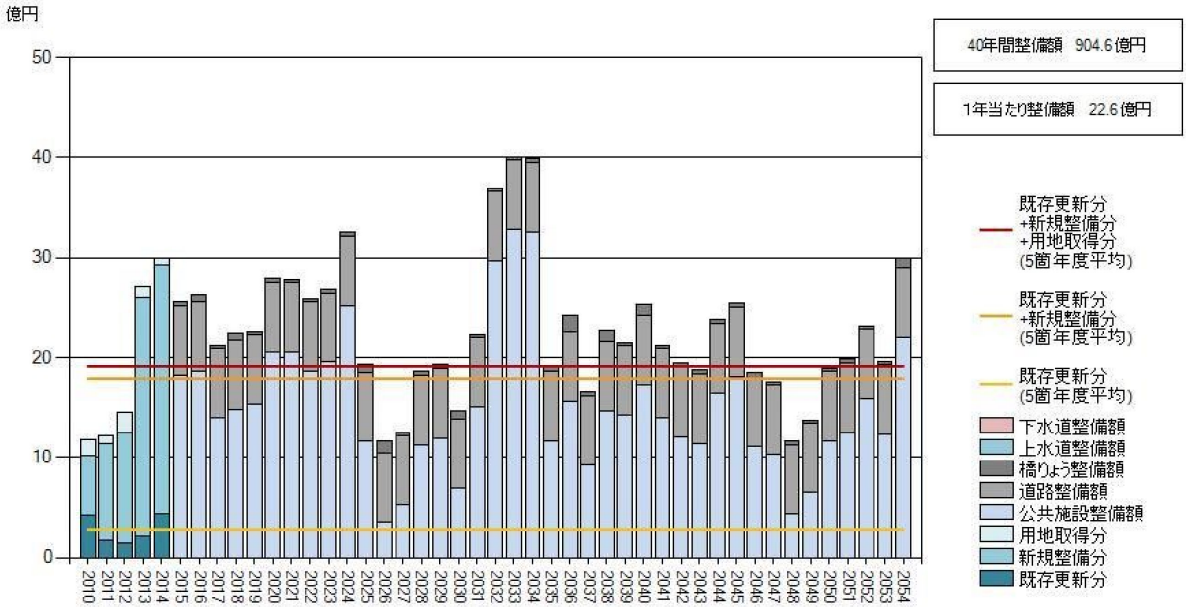
［出典：総務省市町村別決算状況調］

❷ 公共施設

平成 27 年（2015 年）から令和 36 年（2054 年）までの 40 年間に想定される公共施設及びインフラ資産の将来更新整備額は総額 904.6 億円で、１年当たりの整備額は 22.6 億円と、既存更新分、新規整備分、用地取得分の５箇年度平均整備額を上回ることが想定されています。

特に、令和 14 年度（2032 年度）から令和 16 年度（2034 年度）までは公共施設整備額が増加し、平均を大きく上回る費用が必要になることが想定されています。

■ 公共施設及びインフラ資産の将来更新費用推計



※令和５年（2023 年）３月の計画では将来更新費用の推計を行っていないため、平成 28 年（2016 年）２月の計画のグラフを使用

［出典：匝瑳市公共施設等総合管理計画（平成 28 年（2016 年）２月）］

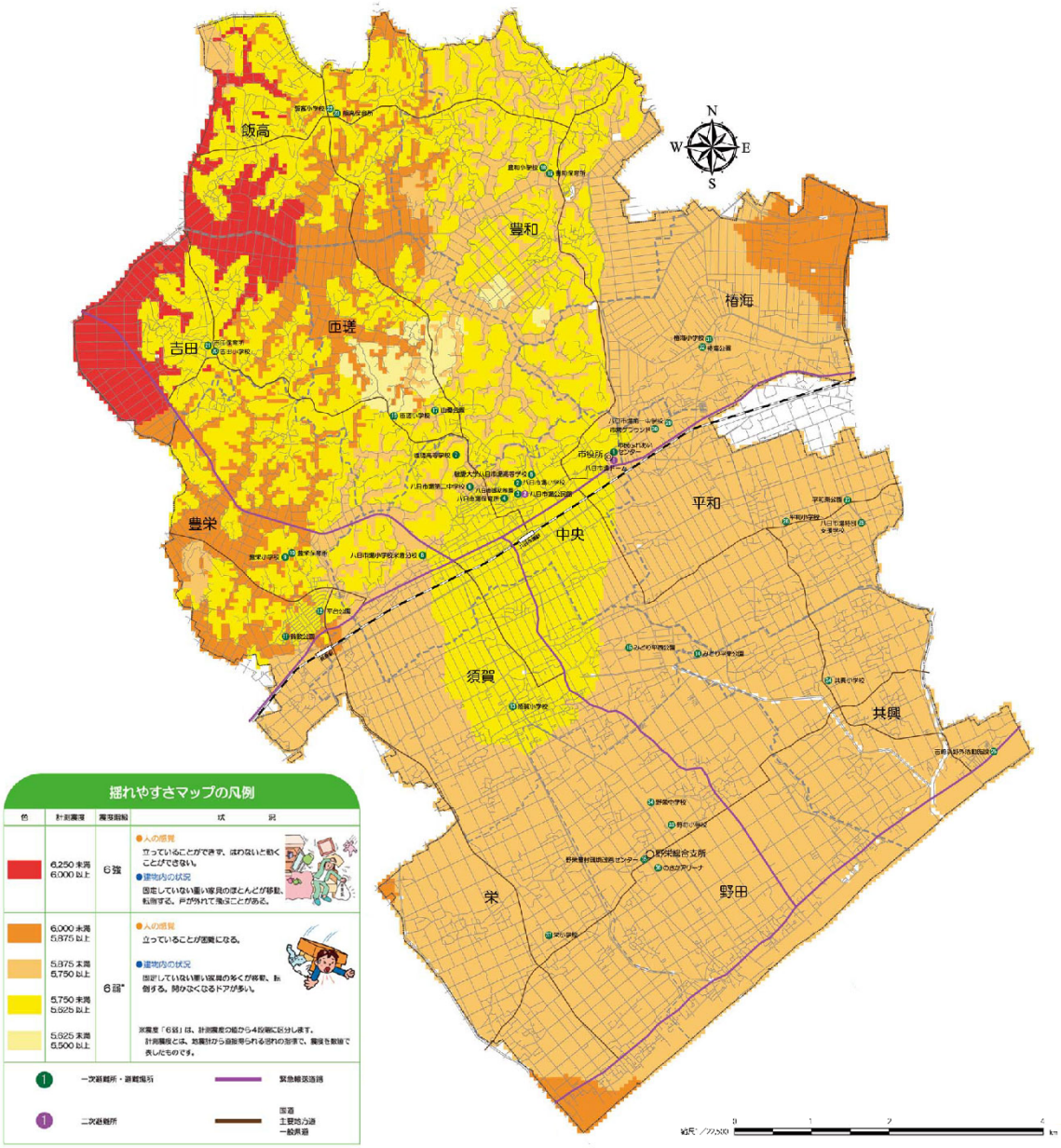
6）災害リスク等

（1）災害リスク

1 地震

本市直下でマグニチュード 6.9 の地震が発生した場合は、市全域で震度６弱以上の揺れが想定されています。特に、北西部の吉田地区、飯高地区付近では震度６強の激しい揺れが想定されています。

■ 地震想定震度分布図

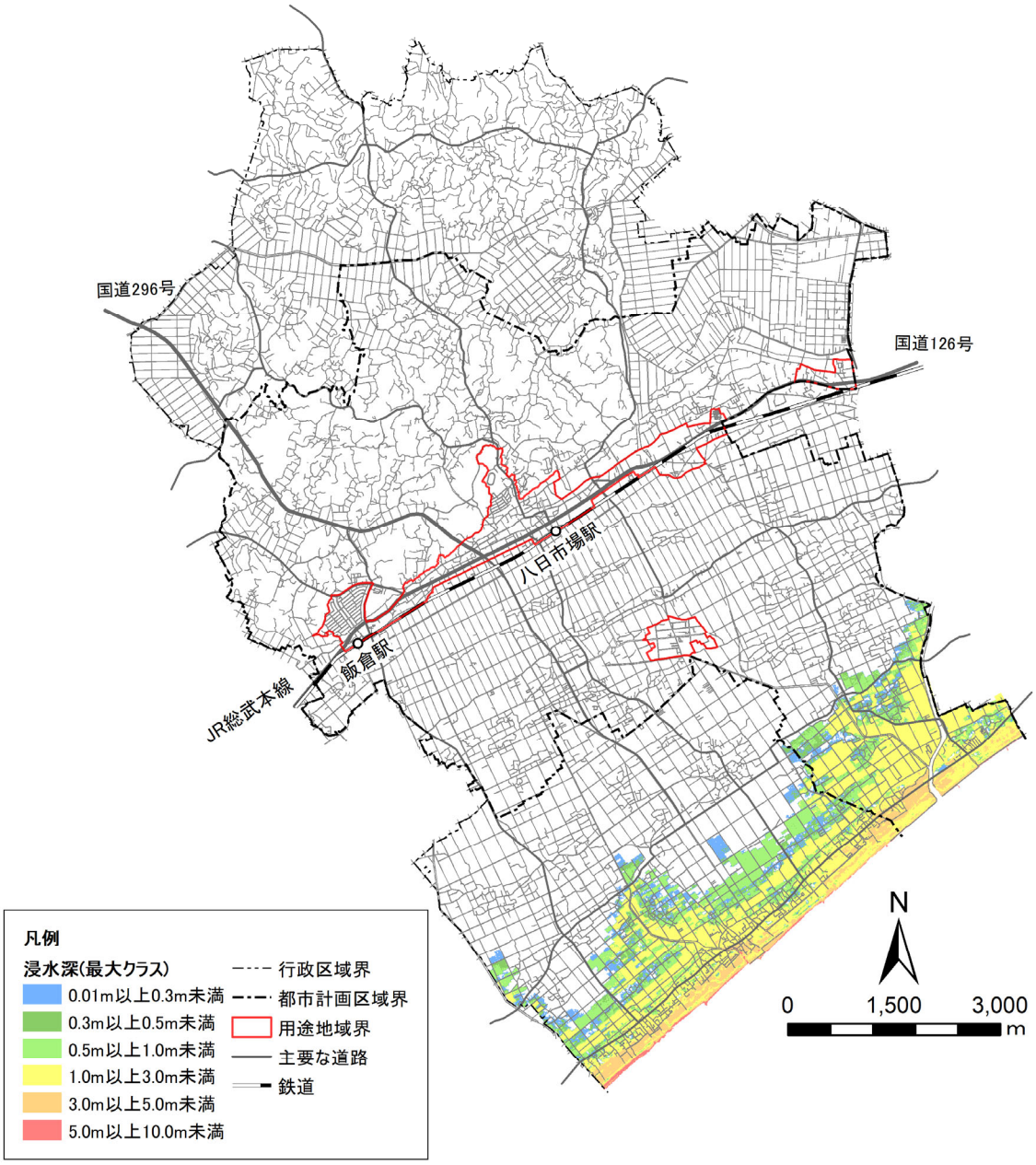


［出典：匝瑳市地震ハザードマップ（平成 21 年（2009 年）３月）］

② 津波

津波想定浸水深図(最大クラス)では、市南部の広い範囲で津波による浸水が想定されています。特に、沿岸部では、広い範囲で１m以上と比較的深い浸水深が想定されています。

■ 津波想定浸水深図（最大クラス）



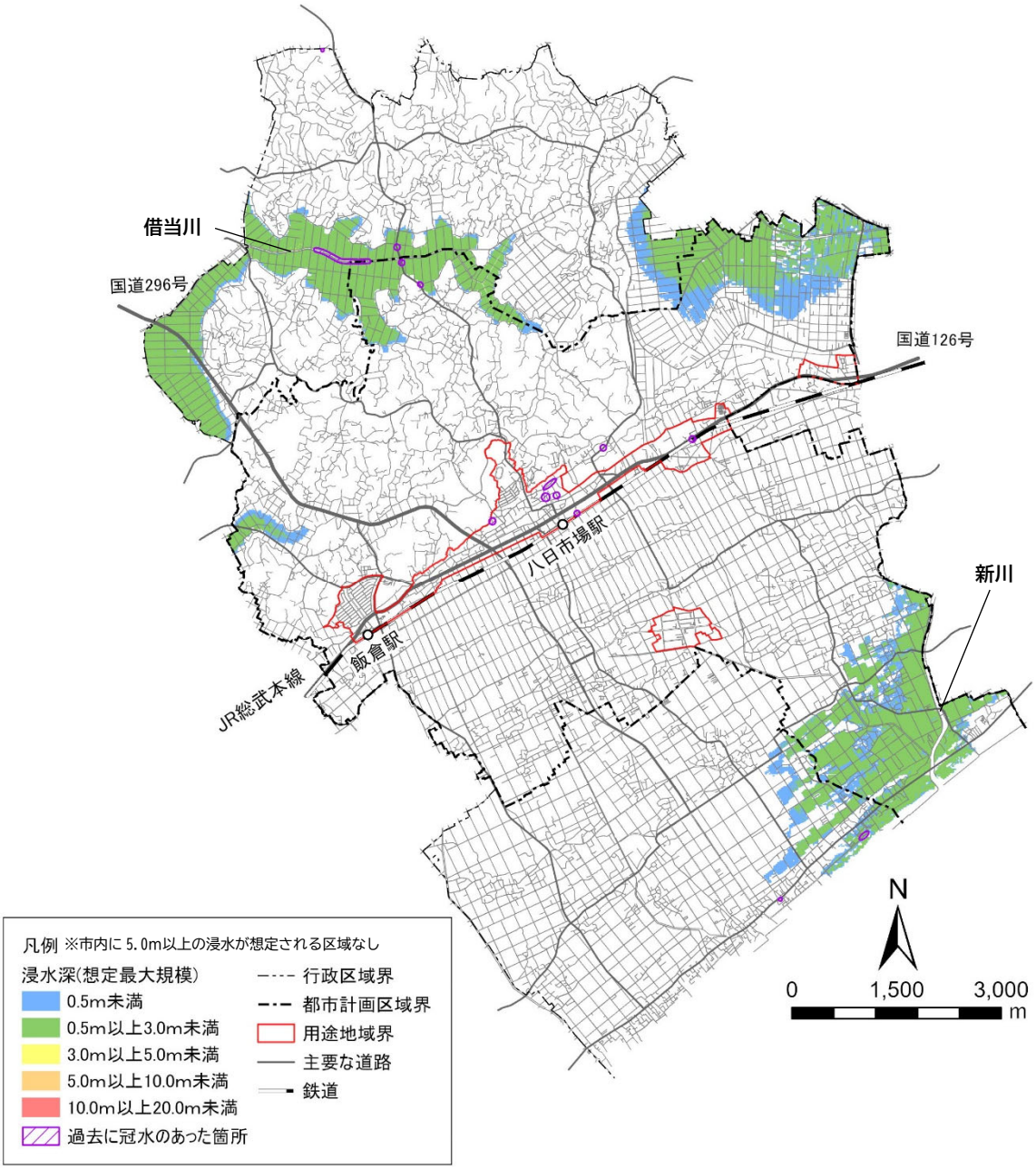
※最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表示（平成 30 年（2018 年）11 月公表）
（推計条件については、千葉県の「津波防災地域づくりに関する法律」に基づく津波浸水想定の設定をＨＰから確認）

［出典：ちば情報マップ］

③ 洪水

洪水想定浸水深(想定最大規模)では、市北西部の借当川周辺、市北東部や市南東部の新川周辺を中心に 0.5m～3.0m程度の浸水が想定されています。また、これまでに八日市場駅の北側、市北部の借当川や市南部の九十九里浜周辺において冠水が確認されています。

■ 洪水想定浸水深（想定最大規模）・過去に冠水のあった箇所図



※「借当川」「新川、七間川」について、想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域と水深を表示
（借当川：令和２年（2020 年）３月 30 日指定　新川、七間川：令和４年（2022 年）３月 29 日指定）
対象河川：借当川　　新川、七間川
想定した降雨条件：栗山川流域の 24 時間総雨量 615.1mm　新川及び七間川流域の 24 時間総雨量 656.2mm
（推計条件については、千葉県の洪水浸水想定区域ＨＰから確認）

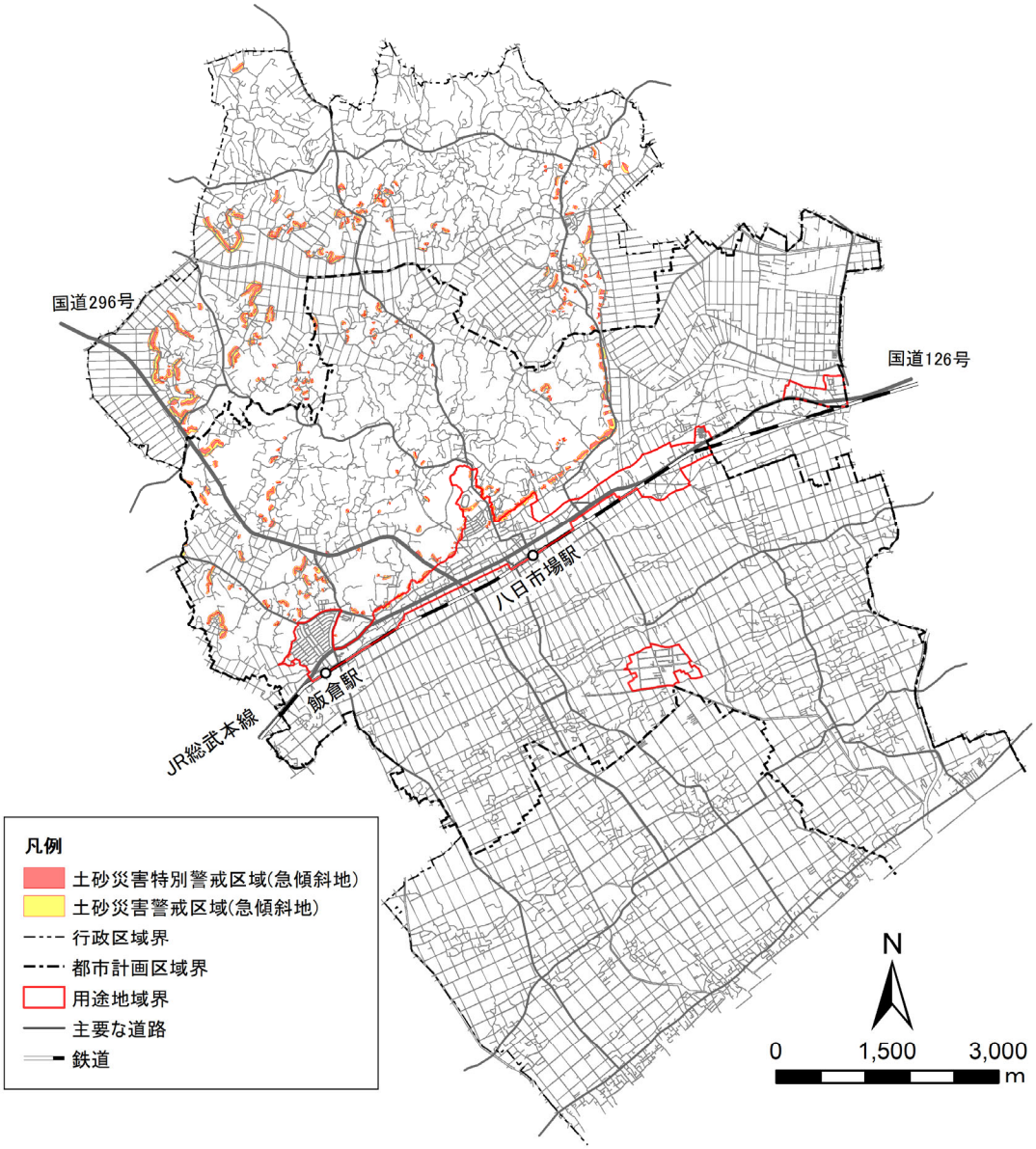
［出典：ちば情報マップ］

④ 土砂災害

市北部の丘陵地に土砂災害（特別）警戒区域（急傾斜地）に指定されている地域が広く分布しています。

また、用途地域内でも、土砂災害（特別）警戒区域（急傾斜地）に指定されている地域が複数分布しています。

■ 土砂災害（特別）警戒区域位置図



※データ公表年月日：令和６年（2024 年）４月 17 日時点

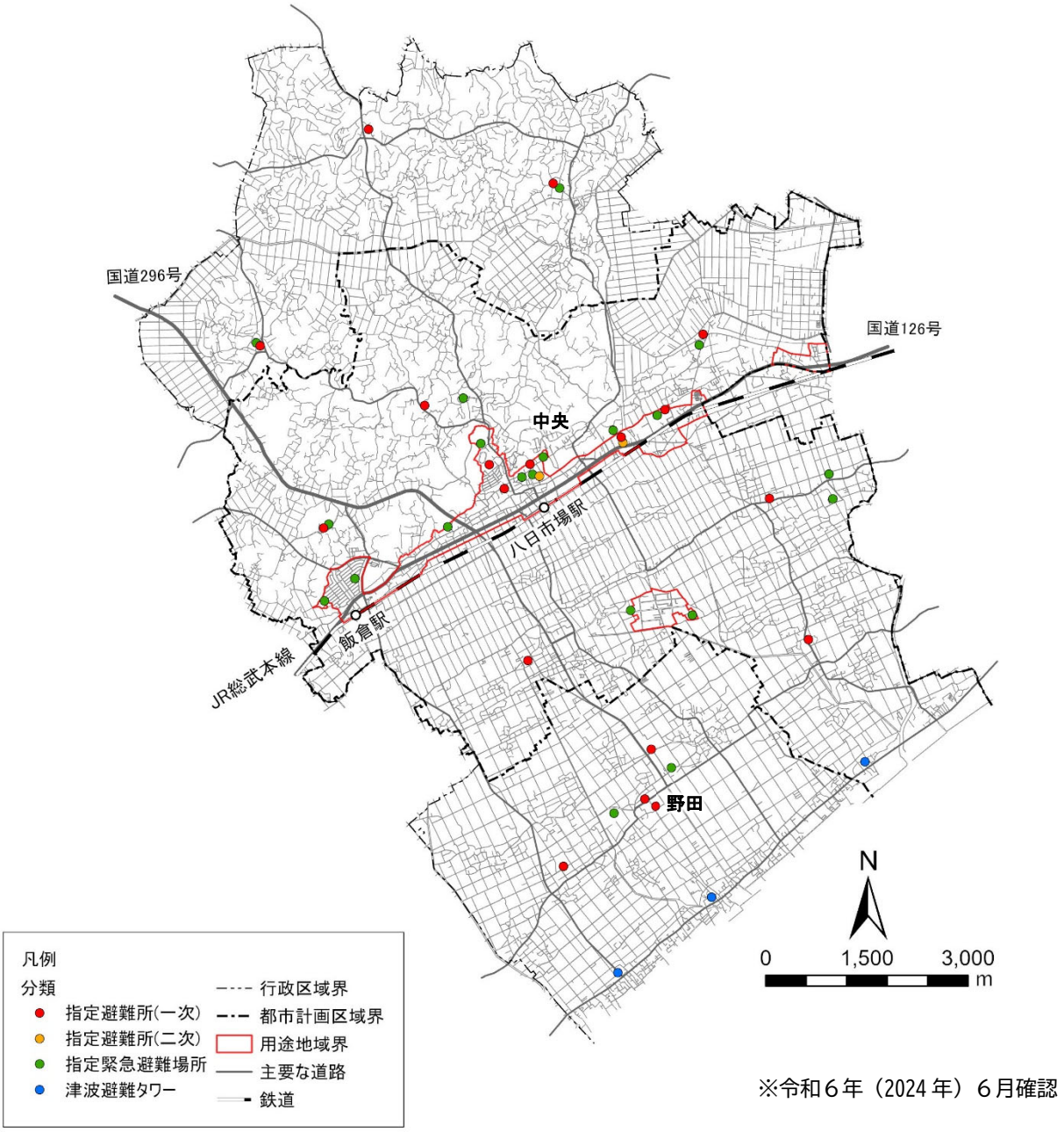
［出典：ちば情報マップ］

（２）避難施設

避難所・避難場所等は、指定避難所（一次）18 か所、指定避難所（二次）２か所、指定緊急避難場所 38 か所、津波避難タワー３か所があります。

避難所・避難場所は概ね市全体に広く点在し、特に、人口が集中している中央地区や野田地区には数多く設置しています。

■ 避難所・避難場所等位置図



※令和６年（2024 年）６月確認

※指定緊急避難場所が指定避難所（一次）を兼ねている場合は、指定避難所（一次）を優先して図示しています。

［出典：匝瑳市］

2 －２　匝瑳市の課題

これまでの本市の現況を踏まえて、本市の課題を以下のように整理します。

■ 現況の概要と課題

分類	現況の概要	課　　題
人口等	● **人口・世帯数** ・人口は平成７年（1995 年）をピークに減少傾向、令和２年（2020 年）にはピーク時より約２割の減少となっています。 ・令和 32 年（2050 年）の人口は、令和２年（2020 年）の半分程度に減少することが想定（社人研推計）されます。 ● **年齢構成** ・少子高齢化の進展により、令和２年（2020 年）時点で 65 歳以上人口が約 36%、０～14 歳人口が約 10%となっています。 ・令和 27 年（2045 年）には、65 歳以上が約 50%、０～14 歳人口が約７%とさらなる少子高齢化が想定されます。 ● **自然増減・社会増減** ・自然増減、社会増減ともにほぼ毎年マイナスで推移しています。 ・特に出生数の減少と 20 代の転出の影響が大きくなっています。 ● **人口分布** ・人口は、用途地域内や市南部に比較的多く分布しています。 ・令和 27 年（2045 年）には、市全域で人口が減少し、特に八日市場駅北部で人口が大きく減少することが想定されます。	・女性や若者が安心して働ける場の創出、子育て支援等、**若い世代や子育て世代の居住を誘導**する必要があります。 ・アクセスしやすい場所への生活利便施設の立地誘導、交通弱者に配慮した移動手段の確保等、子どもから高齢者までが、**いつまでも健康・快適に生活できるユニバーサルデザインのまちづくり**を進める必要があります。

分類	現況の概要	課　　題
産業等	● **産業** ・市内の事業所数・従業者数ともに減少傾向にあります。 ・農家数、経営耕地面積ともに減少傾向にあります。 ・製造品出荷額等は増加傾向にあります。 ・小売業は売場面積、年間商品販売額ともに減少傾向にあります。 ・観光入込客数は横ばいで推移、令和２年（2020 年）、令和３年（2021 年）は新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少しています。 ● **通勤・通学** ・市外に就業・通学している人が市内に就業・通学している人を上回り、流出超過の状態です。	・全国有数の規模をほこる植木栽培や九十九里浜のマリンスポーツ、美しい自然景観や歴史資源等、**地域特性を活かした産業の育成等により働く場を確保**する必要があります。
土地利用	● **土地利用現況** ・住宅用地は八日市場駅周辺、飯倉駅北部や市南部の集落に、田畑は市北東部や南部に、山林は市北部の丘陵地にまとまって分布しています。 ● **空家等** ・空家等は八日市場駅北側や海岸部の集落に多数分布しています。 ・空家数、空家率は増加傾向にあります。 ● **開発動向等** ・住宅新築、農地転用は用途地域内やその周辺で集中して行われています。	・人口減少や店舗の撤退、空家等の増加等により、中心市街地の空洞化、利便性や魅力の低下が進む懸念があります。 ・そのため、**既存の都市機能が集積し、交通利便性の確保された中心市街地の魅力を維持・向上させるコンパクトなまちづくり**を進める必要があります。

分類	現況の概要	課　　題
道路・交通	● **利用交通手段** ・買い物、通院の行き先は市内が多くなっています。 ・いずれの目的でも、利用交通手段は自家用車が多い一方で、駅周辺を含む中部地域では自転車・徒歩も比較的多くなっています。 ● **公共交通** ・市内循環バスは運行本数は少ないものの、人口の多い地域をほぼカバーしています。 ・鉄道、市内循環バスともに利用者は減少傾向にあります。	・市民の移動手段は自家用車に大きく依存していますが、高齢者の増加に伴い、これまで以上に公共交通の必要性が高くなることが想定されます。 ・そのため、**都市機能が集積した交通結節点でもある駅周辺と郊外の居住地を結ぶ公共交通を維持し、その利便性を向上**させる必要があります。
都市機能	● **施設立地** ・多くの施設は用途地域内に集中しています。 ・行政機能、文化機能の施設は野田地区にも立地しています。 ・子育て機能、教育機能及び介護機能の施設は市内に広く点在しています。 ● **財政** ・今後、公共施設やインフラの維持管理・更新に必要な費用が増大することが想定されます。	・人口減少に伴い施設利用者や施設の担い手の減少が想定されることから、**市民がアクセスしやすい駅周辺の都市機能の維持・充実**を進める必要があります。 ・人口減少等による歳入減少の一方で、公共施設の維持管理・更新費用の増大が想定されることから、**公共施設の長寿命化とともに、集約化・多機能化**を進める必要があります。
災害リスク	● **災害リスク** ・地震のリスクは、市北西部で震度６強、その他の地区でも震度６弱が想定されます。 ・津波浸水のリスクは市南部で高く、河川洪水のリスクは市北西部の吉田、飯高地区で高く想定されています。 ・これまでに、八日市場駅北側、市北部の借当川や市南部の九十九里浜周辺において冠水が確認されています。 ・土砂災害警戒区域は、用途地域周辺を含む市北部に数多く分布しています。 ● **避難施設** ・避難施設は、概ね市全体に広く分布しています。	・市北西部や南部では洪水や津波による浸水リスクが高く、用途地域内では土砂災害や地震、冠水による災害リスクが存在します。 ・そのため、**想定される災害に応じて災害発生時の被害の最小化や災害リスクの低減・回避**を進める必要があります。